

〔第8回 企画展図録〕

やまがたの古墳とその時代



1999.10

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

は じ め に

山形県は、日本における古墳時代の古墳の北限の地である。紀元3世紀後半より7世紀にかけて、南は九州南部から北は東北南部にかけて、大王をはじめ地域首長・豪族たちはさまざまな形と、大阪府堺市にある大仙古墳のように全長486メートルにおよぶ巨大な前方後円墳から、10メートルにもみたない小円墳までその数35万基といわれるほど多数の古墳を造営した。

それらの古墳は、大和連合国家を中心に日本の国が統一形成される状況をよく示している。とくに地域の古墳は、国家形成期の政治動向や文化、人びとの動きを知る上できわめて重要な情報を提供する。

この度の企画展「やまがたの古墳とその時代」は、大和連合政権の勢力がおよんだ北限の地としての山形県内の古墳を紹介するとともに、県内から出土している「はにわ」や古墳からの副葬品、さらに古墳をつくった人びとの生活の一端を示す資料も展示して、総合的に山形の古墳時代を把握できるように意図したものである。

その中から北辺の古墳の特殊性や普遍性、そして国家形成期における壮大な人びとの動きを読みとっていただければ幸いである。本冊子は、さらに詳細な資料を加え、展示資料とともに山形の古墳について一層深め合うことを期待して編集・作成したものである。

本企画展を開催するにあたり貴重な資料を提供いただいた各教育委員会・博物館・資料館・研究調査機関の各位に深甚の謝意を表すものである。

1999年10月

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

館 長 川 崎 利 夫

目 次

1. やまがたの埴輪	1
2. 外観からみた山形の古墳	
— 最上川の上流から下流へ —	5
3. 古墳の内部をさぐる	16
4. 置賜の横穴式古墳	21
5. 古墳から出土する遺物	26
• 山形県古墳編年表	37
• やまがたの古墳	川崎利夫 … 38
• 山形県古墳研究主要文献目録	44

1. やまがたの埴輪

県内で埴輪が出土している古墳は山形市とその近辺のみである。山形市菅沢2号墳、上山市土矢倉3号墳、山辺町大塚天神古墳の3基にともなう。日本海側では村山盆地が埴輪古墳の北限である。太平洋側では、岩手県南部の胆沢町角塚古墳がこれにあたる。

菅沢2号墳からは、埴輪や中段から円筒・朝顔形埴輪、埴頂部より甲冑・^{ほろ}轂・楯・家・^{きぬがき}蓋などの形象埴輪が多数出土している。人物埴輪などが出現する以前の5世紀後半とみられる。

土矢倉古墳群は3基とも埴輪が発見されている。人物埴輪の一部がみつがっているが、現存するのは3号墳出土の円筒埴輪で、6世紀前半とみられる。

最近にわかに注目を集めたのが山辺町大塚天神古墳で、円筒埴輪の突帯部やハケ整形の技法などから前期古墳にともなう埴輪とされ、4世紀後半の年代が推定されている。

菅沢2号墳の埴輪

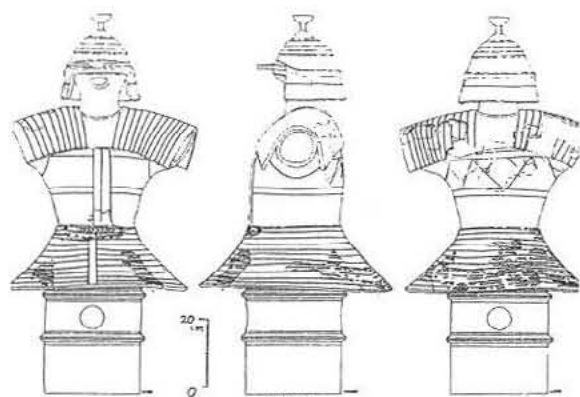
(山形市教育委員会所蔵)



1. 甲冑形埴輪 (正面)



2. 同 (側面)



3. 同実測図

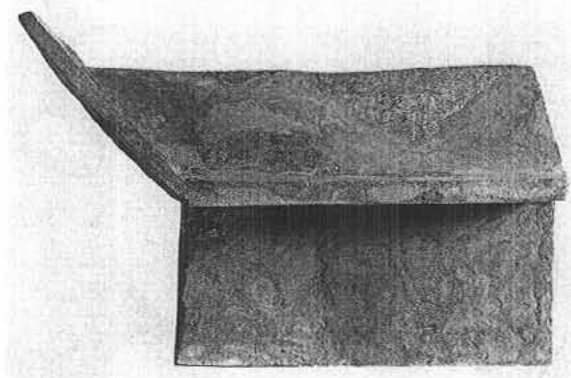
(高さ 110cm)



4. 糸形埴輪 (高さ 88cm)



5. 楯形埴輪 (高さ 77cm)



6. 家形埴輪 (高さ 31.3cm)



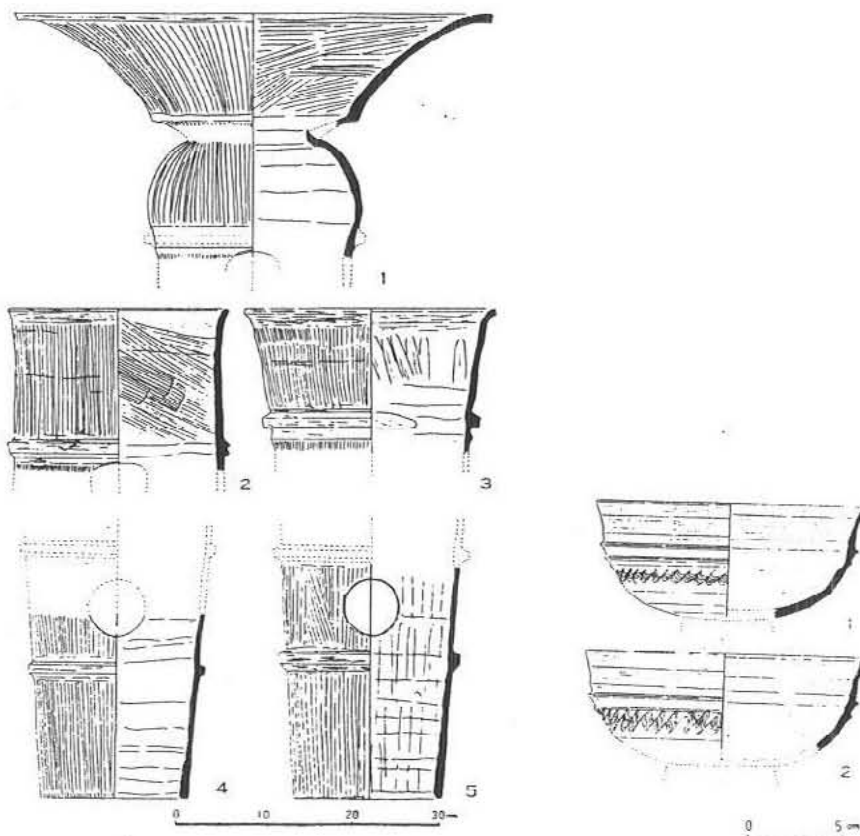
7. 朝顔形埴輪 (高さ 66.9cm)



8. 円筒埴輪 (高さ 37.5cm)



9. 3号墳の円筒埴輪



10. 3号墳の円筒埴輪片 11. 1号墳の須恵器実測図 (上山市教委「土矢倉古墳」1969)

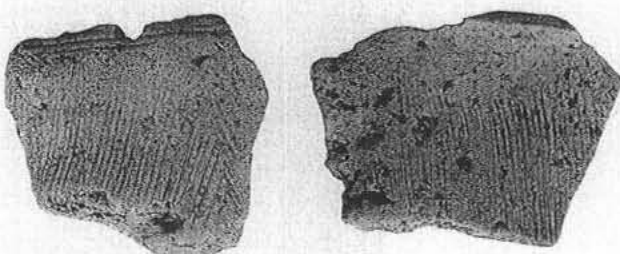
大塚天神古墳の埴輪



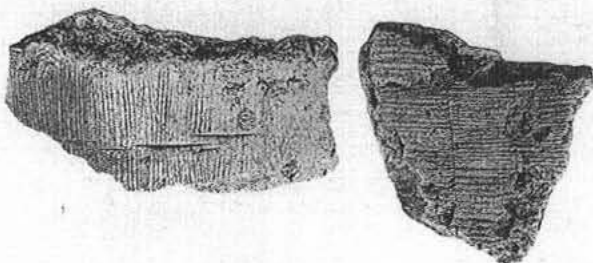
12. 円筒埴輪
(山辺町ふるさと資料館保管)



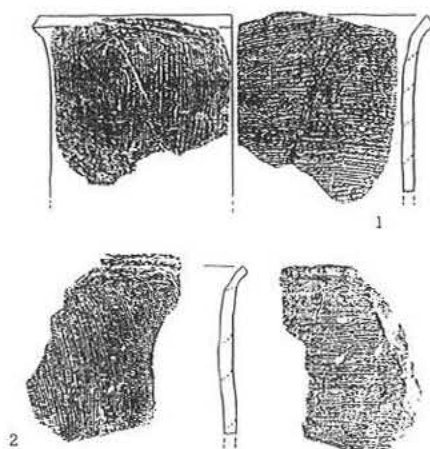
13. 円筒埴輪
(山辺町相模郵便局展示)



14. 円筒埴輪破片
(山辺町教育委員会蔵)



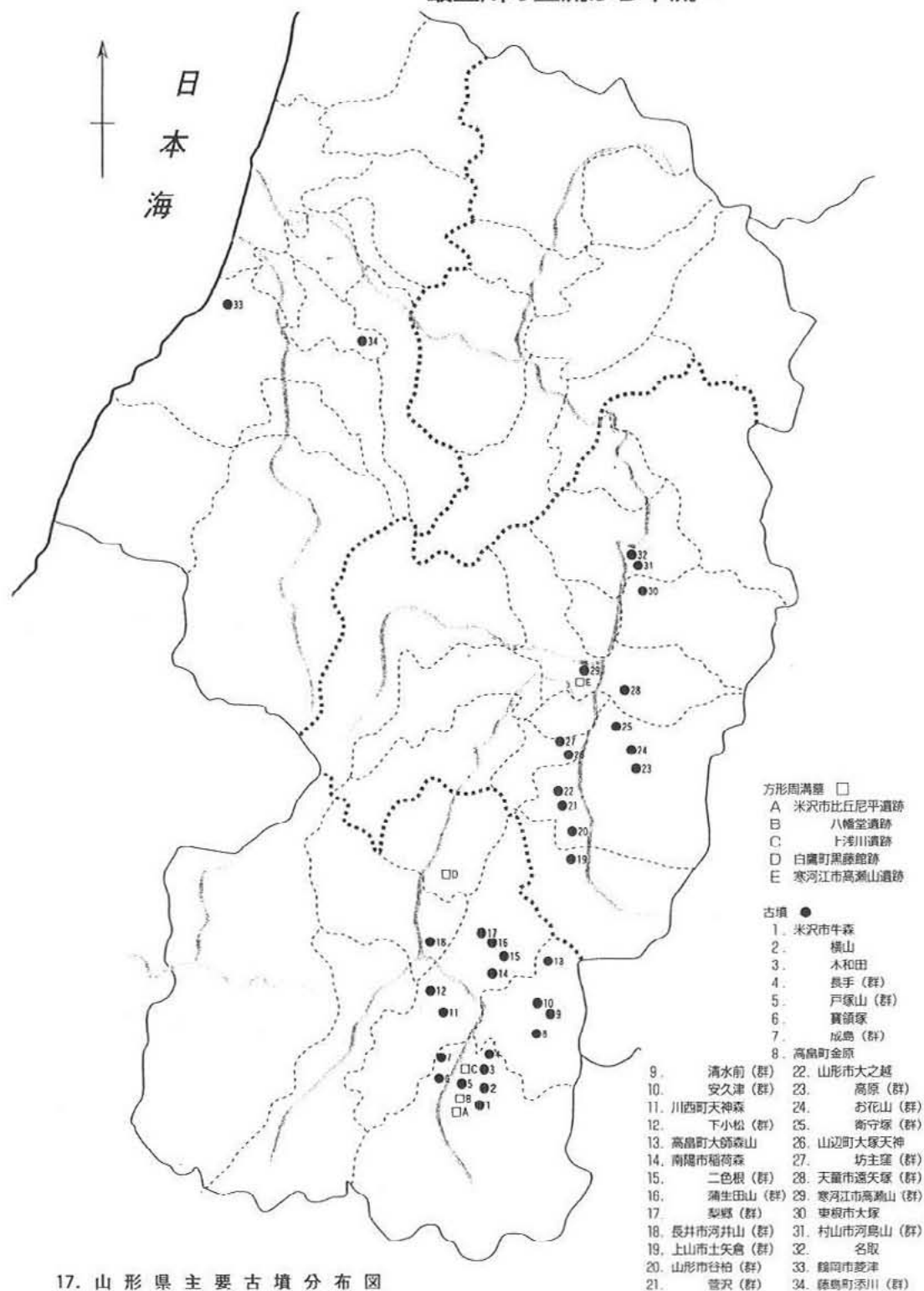
15. 円筒埴輪破片
(山辺町教育委員会蔵)



16. 円筒埴輪実測図 (茨木光裕による)

2. 外観からみた山形の古墳

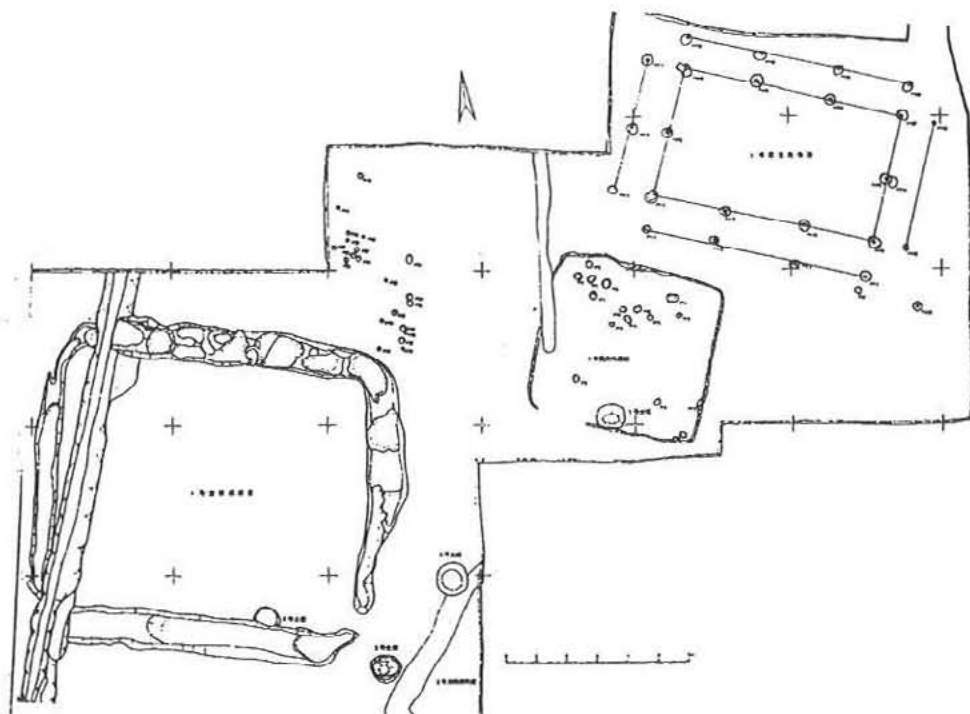
—— 最上川の上流から下流へ ——



17. 山形県主要古墳分布図

比丘尼平方形周溝墓

1978年県内ではじめての方形周溝墓が米沢市万世町比丘尼平遺跡で発見された。南北11メートル、東西12メートル。溝は幅1.3メートル、溝の中から4世紀の土師器が出土した。その後同じ米沢市八幡堂遺跡より5基、上浅川遺跡で大型のもの1基、白鷹町黒藤館跡で3基、村山盆地では高瀬山遺跡でも確認されている。県内のものはすべて古墳時代前期の4世紀代の例である。



18. 比丘尼平遺跡平面図

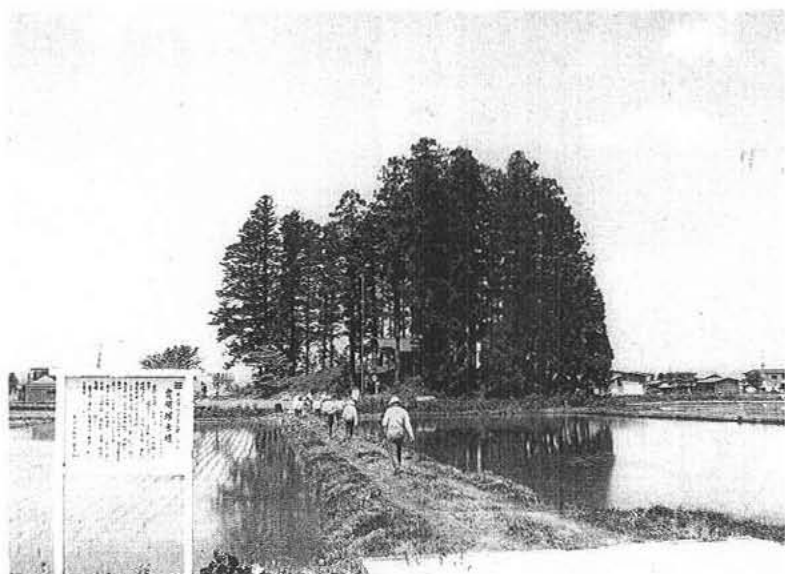


19. 八幡堂遺跡方形周溝墓

(米沢市教育委員会 提供)

寶領塚古塚

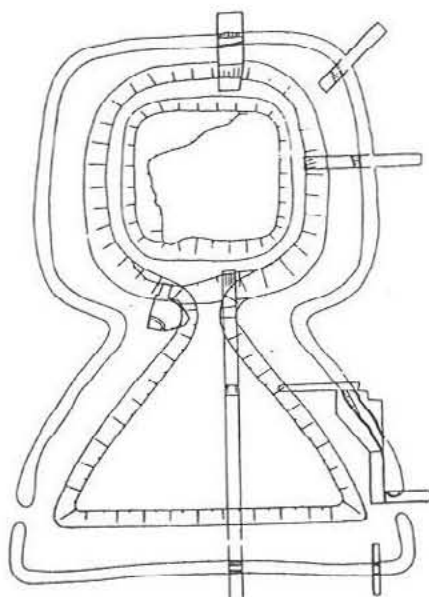
米沢市街の北部窪田町の西側、鬼面川と松川によって囲まれた低地部に所在する。前方部が失われた今は長さ40メートル、幅47メートル、高さ5.4メートルの後方部のみ残る。三段築成でもともと全面に葺石をもつ前方後方墳である。置賜地域では最古に属する古墳で、推定全長80メートルの前方後方墳である。



20. 寶領塚古墳（後方部）



21. 寶領塚古墳測量図



22. 寶領塚古墳 推定復原図

（米沢市教委「寶領塚古墳」1991）

戸塚山古墳群

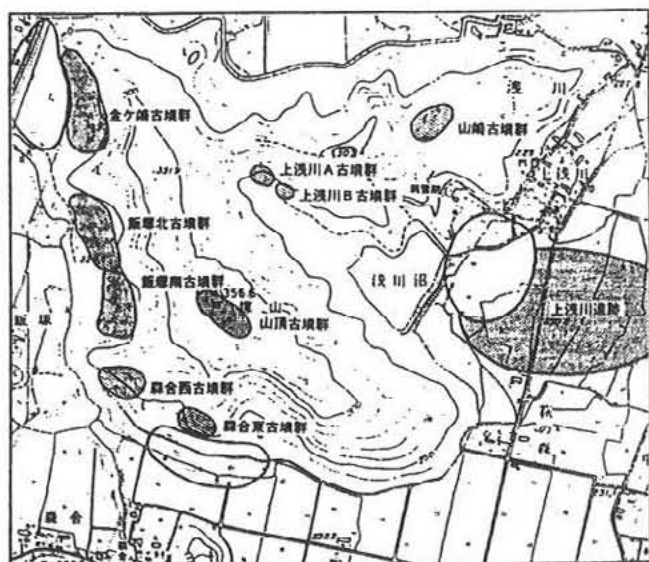
米沢市街の北に横たわる標高356メートルの戸塚山とその周辺は、193基の古墳群が確認されている。山頂部には54メートルの前方後円墳（139号墳）、その東に帆立貝式の138・137号墳がある。137号は、全長24メートルで箱式石棺を内部主体とし6世紀前半の古墳とされている。139号墳は5世紀後半と推定され、山麓部には7・8世紀の横穴式古墳が多く、9支群に分けられる。東北有数の古墳群である。



23. 戸塚山全景



24. 戸塚山137号墳



25. 戸塚山古墳群分布図

26. 八幡塚古墳
26.5メートルの円墳
(米沢市窪田)



天神森古墳と下小松古墳群

川西町の羽前小松駅東方のフレンドリープラザ北に県指定天神森古墳がある。全長75.5メートルの前方後方墳で複合口縁底部穿孔壺などの出土から4世紀後半と推定されている。

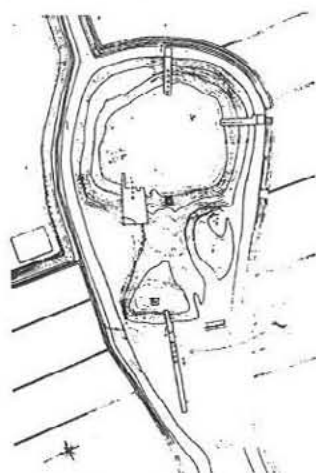
それより北西にひろがる眺山丘陵中に169基の4支群に分かれる古墳群がある。その中の小森山支群には16基の前方後円墳を含む。おおむね20メートル前後の小型のもので、これまで発掘された10基余りの古墳から4世紀後半から6世紀末まで築造されたものらしい。今年、国の史跡となった。



27. 天神森古墳



28. 下小松61号墳



29. 天神森古墳墳丘図

群	15m以下	15m-18m	18m-21m	21m-24m	24m以上
記号	●	●	●	●	●

下小松古墳群墳丘類型分布図



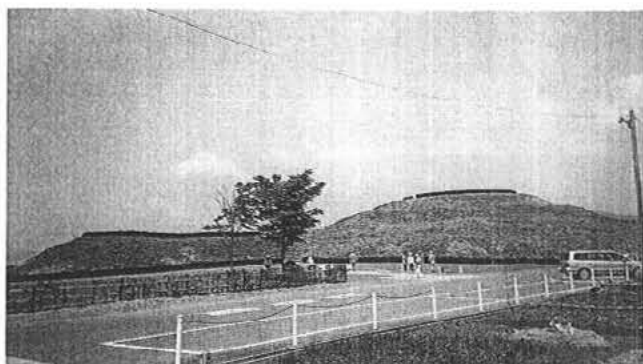
30. 下小松古墳群分布図

(斉藤敏明による)

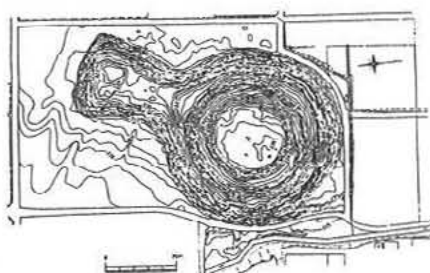
稲荷森古墳と蒲生田山古墳群

南陽市の南、長岡の地にある稲荷森古墳は全長96メートルの前方後円墳で国指定史跡となっている。後円部径62メートル、高さ10メートルで、三段築成。前方部は、34メートル、高さ5メートルで短小である。周濠はなく、丘陵を削り出して一段目を造り出し、二・三段は盛土している。後円部直下より4世紀代の土師器が出土している。

これより北のハイジアパーク内の蒲生田山2～4号墳は30メートル前後の前方後方墳で、稲荷森古墳に先行するものかもしれない。



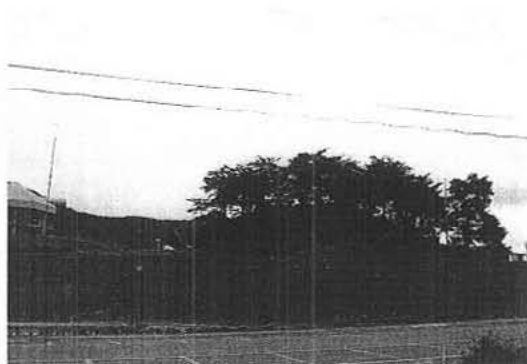
31. 稲荷森古墳



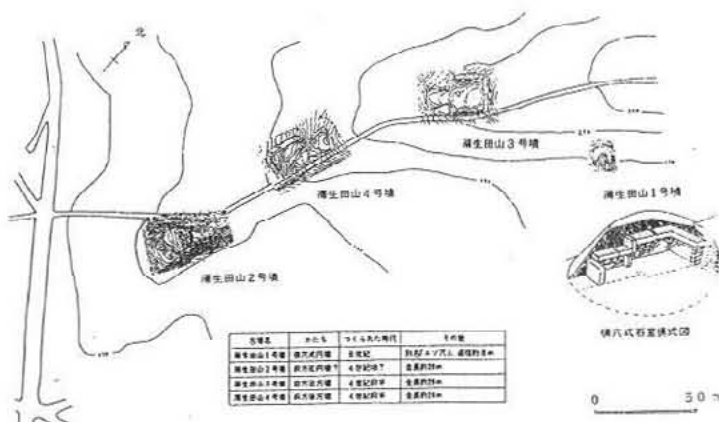
32. 稲荷森古墳墳丘図



33. 蒲生田山古墳群4号墳



34. 蒲生田山古墳群2号墳



35. 蒲生田山古墳群分布図

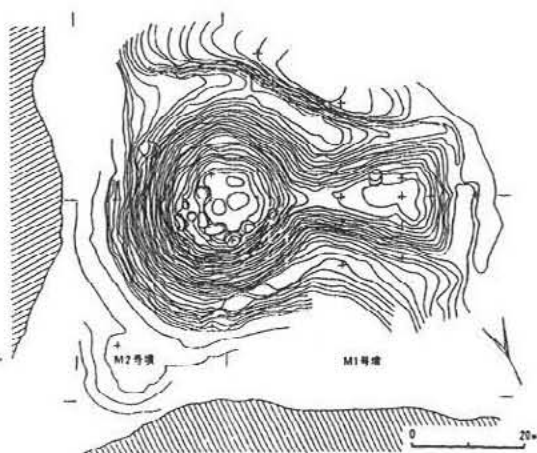
(南陽市「南陽市史考古資料編」1987)

成島 2 号 墳



36. 成島 2 号 墳

米沢市広幡町成島に所在する成島古墳群は、60メートルの前方後円墳と方墳5基、円墳1基で構成される。前方後円墳は後円部を6とした場合、前方部4.5でよく整った形をしている。後円部の高さ4.7メートル、前方部4.2メートルで高さの比が少ない。



37. 成島 2 号墳墳丘図

(米沢市教委「成島古墳群」1992)

河井山古墳群



38. 河井山 1 号墳

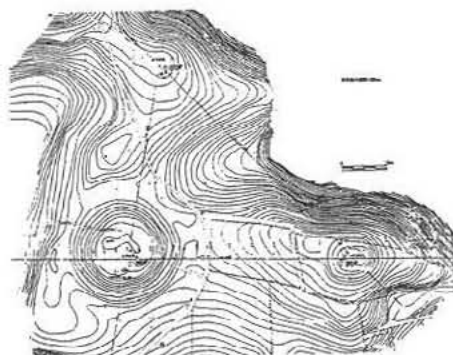
長井市西側の河井山丘陵に7基の円墳がある。1989年来、国学院大考古資料館によって調査が行われた。発掘された1号墳は径20メートルほどの円墳で、1.5メートル幅の周濠がめぐる。内部は割竹形木棺直葬で刀子と土師器片が出土している。5世紀後半の古墳群である。

菅沢2号墳・大之越古墳

山形盆地南西部の出羽丘陵ぞいには、箱式石棺を主体とし25基からなる谷柏古墳群、埴輪を大量に出土した50メートルの菅沢2号墳を含む3基の菅沢古墳群、さらにその北1キロには単鳳環をはじめ鉄製馬具を出土した大之越古墳がある。さらに村木沢速見堂古墳群をへて、山辺町大塚天神古墳や根際古墳群、さらには大寺地区の坊主窪古墳に連なっていく。そして最上川を越せば、寒河江市高瀬山古墳群に至る。



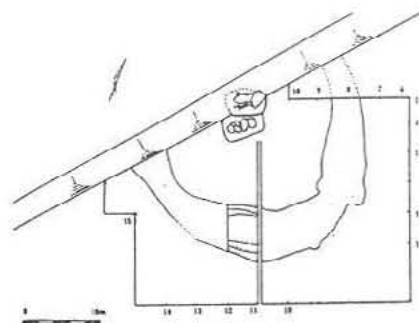
39. 菅沢2号墳



40. 菅沢2号墳墳丘図

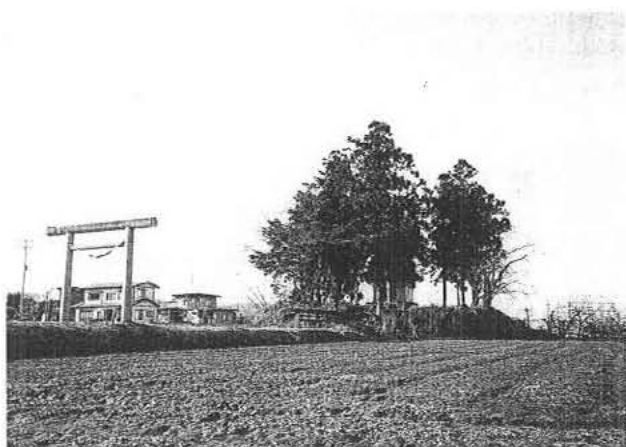


41. 大之越古墳

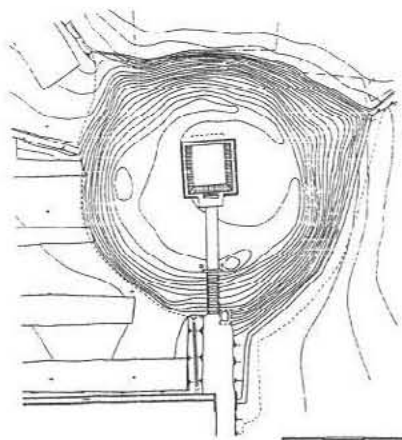


42. 大之越古墳墳丘図

大塚天神古墳・坊主窪古墳群



43. 大塚天神古墳



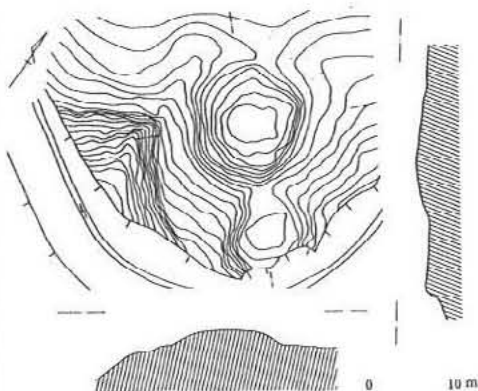
44. 同左 墳丘図

大塚天神古墳は、1995年公園造成中に埴輪破片が出土したことから、その東側にある天満神社をまつる墳丘が古墳であることがその後の山辺町教育委員会の調査によって確認された。直径50メートルの円墳でタテハケの円筒埴輪が出土し、4世紀代とみられる。村山盆地ではもっとも古い古墳として注目される。

これより3.5キロ北の丘陵部に位置する坊主窪古墳群は16基以上の円墳が主体であるが、1号墳のみ26.5メートルの前方後円墳で、この墳形では日本海側の北限に位置し、6世紀代とみられる。



45. 坊主窪1号墳（後円部）



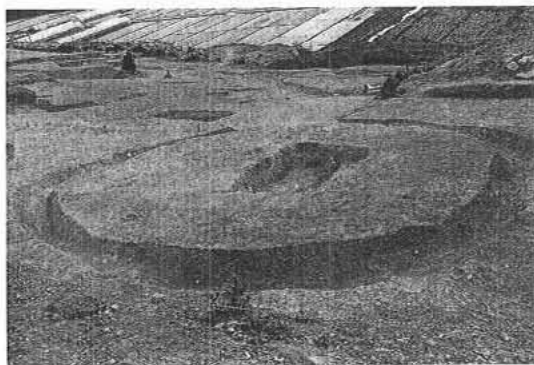
46. 同 墳丘図

お花山古墳群

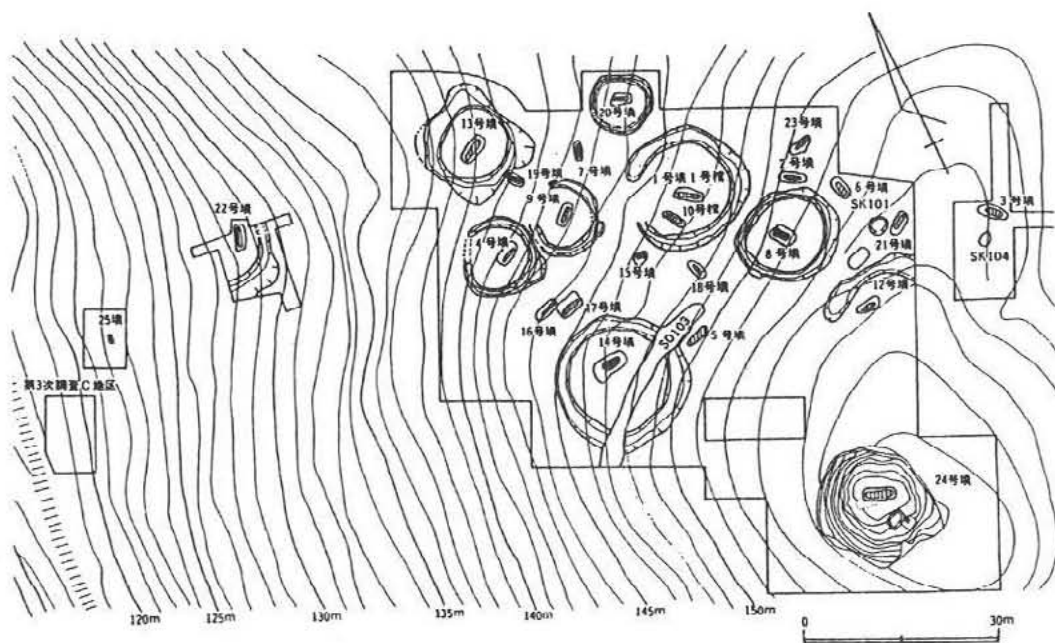
山形市北東部の青野お花山の丘陵に分布する円墳群で、東北横断自動車道にかかるため1982・83年、山形県教委により25基発掘された。径7～19メートルの小規模な古墳群で、内部主体は木棺直葬と箱式石棺の両様があり、1号墳より振文鏡、22号墳より乳文鏡が発見され、畿内より搬入されたとみられる須恵器蓋坏なども出土している。5世紀後半より6世紀にかけての古墳群とみられる。



47. お花山全景

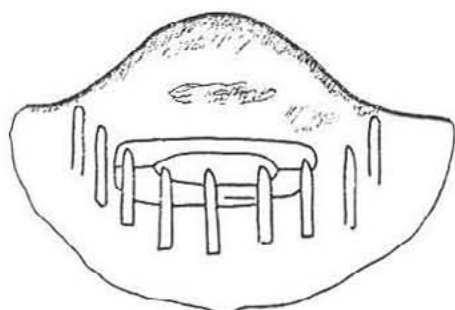


48. お花山8号墳



49. お花山古墳群分布図

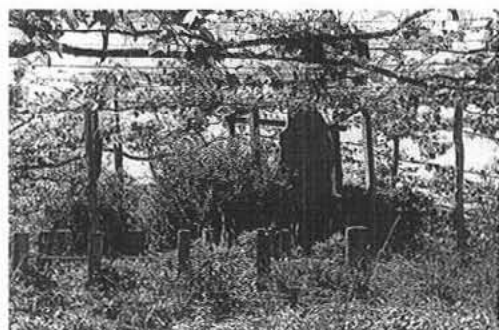
その他の特色ある古墳



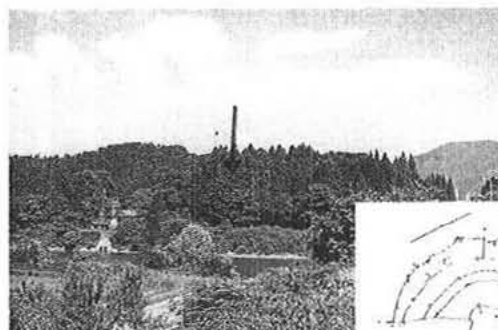
50. 衛守塚古墳構造推定図
(後藤守一氏 原案)



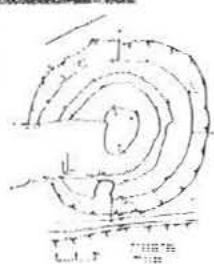
51. 上遠矢塚古墳



52. 高瀬山1号墳



53. 名取古墳遠景



54. 添川1号墳

衛守塚古墳群は山形市の北部の漆山にあったが、今は現存しない。2号墳は木柵が墳丘を囲み、割竹形木棺が出土した5世紀後半の古墳として知られている。最上川より西の寒河江市高瀬山古墳群は数基の円墳や方形周溝墓が確認されているが、1号墳は箱式石棺を主体とする。立谷川北の天童市上遠矢塚古墳は甲冑などを出土している、24メートルの円墳。村山市名取古墳は36メートルの円墳で、内陸部の古墳分布の北限でもある。藤島町添川古墳群は2基が現存する。庄内地方で現存する唯一の古墳群である。

3. 古墳の内部をさぐる

山形県内の古墳で、終末期の横穴式古墳は後でふれることにして、遺体を埋納する内部主体は、木棺直葬と組合せ式長持形石棺、箱式石棺の三様である。

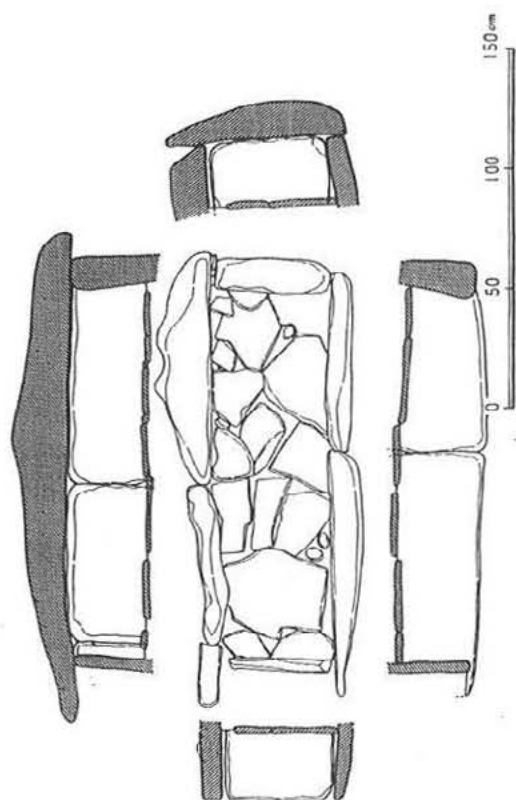
木棺直葬は割竹形木棺と箱形木棺に分けられ、それをすえる底面や側面を粘土でおおったものが多い。箱式石棺は扁平な石材を箱形に組み合わせたもので、5世紀後半から8世紀の終末期までこれが用いられている。組合せ式長持形石棺は、長方形の底石1枚に加工された側壁を組み合わせたもので、高畠町大師森山岩窟と鶴岡市菱津古墳の2例のみ知られている。5世紀代の中期古墳である。

木棺直葬はもっとも古くから行われているが、6世紀には箱式石棺が主となるようである。割竹形木棺が残存していたものに、山形市衛守塚2号墳の例が知られているが、木棺の場合はそれが置かれた跡が残るのみで、棺自体が残ることはほとんどない。

戸塚山137号墳



55. 箱式石棺
1枚岩の蓋が被せてあり、女性人骨と豎櫛・刀子が見つかった。



56. 実測図
(米沢市教委「戸塚山第137号墳」1983)

横山古塚

1999年7月に米沢市教育委員会によって発掘調査が実施された最新の情報である。遺跡は、米沢市街から北東4キロ、八幡原工業団地のヘリポートの北側500メートル、天王川にせりだした丘陵の突端部に位置する。川からの比高28メートル、標高275メートル。古墳の規模は、南北13.5メートル、東西13メートルの方形で、高さ1.4メートル、ほぼ中央部に東西を主軸にした三つの墓壇が発見された。

南側の2・3号墓は、同時に埋葬されたとしく長さ4メートル前後、幅1.2～1.3メートルで、割竹形木棺の直葬とかがえられる。北側の1号墓は4.7×1.1メートルで、2・3号墓の後に埋葬されたものであろう。墓壇やその周辺より、約70点の器台や埴などの破片が出土し、2号墓から管玉1個が発見された。

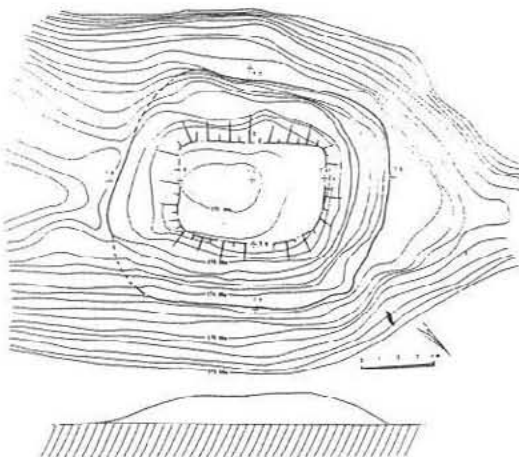
平地部に比較的大型の古墳が出現する以前の4世紀中葉の古墳とみられ、会津盆地の宇内・青津古墳群や仙台平野の名取雷神山古墳に対する高館山古墳群に匹敵し、県内で最古に属する古墳として注目される。



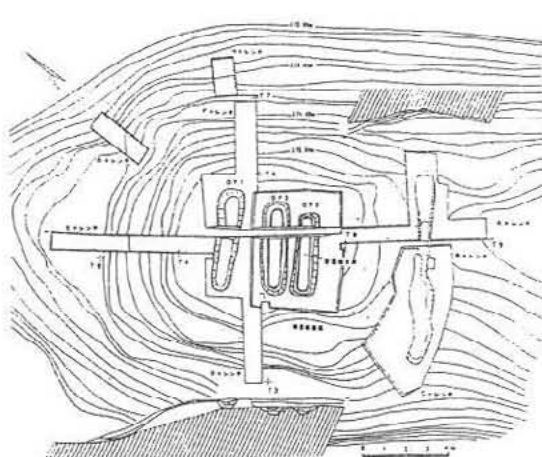
古墳の全景



2・3号墓壇



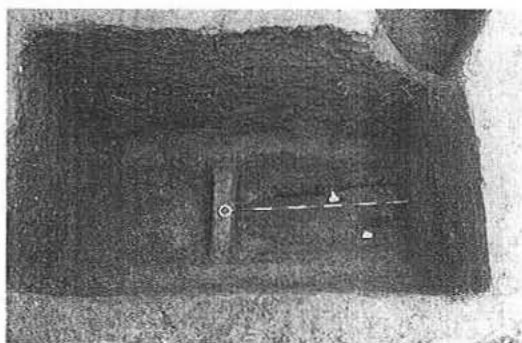
墳丘図



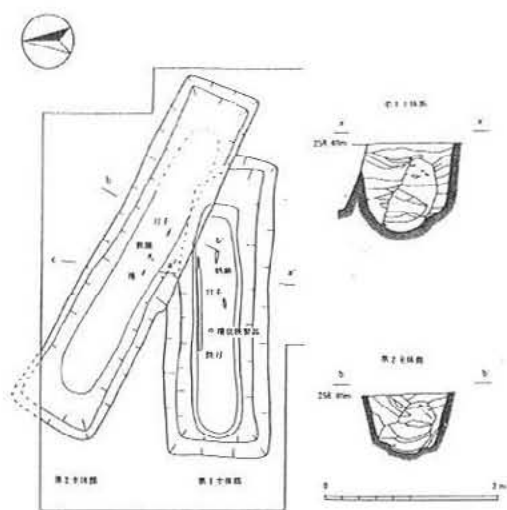
墓壇平面図

(同古墳現地説明会資料より)

下小松61号墳

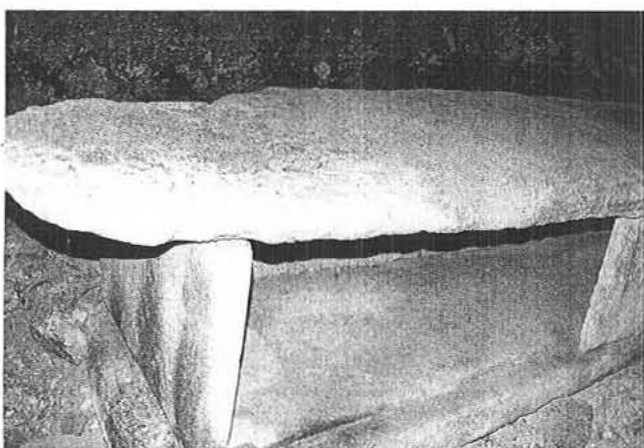


57. 下小松61号墳 全長25.5mの前方後円墳、木棺直葬の跡。
105.1cmの直刀、刀子・鉄鏃などが出土した。1号墓壙と2号墓壙が併設されていた。

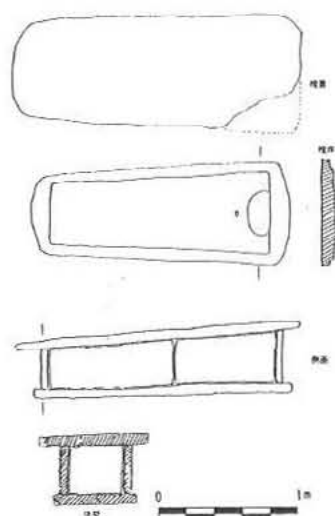


58. 同 実測図

大師森洞窟の石棺

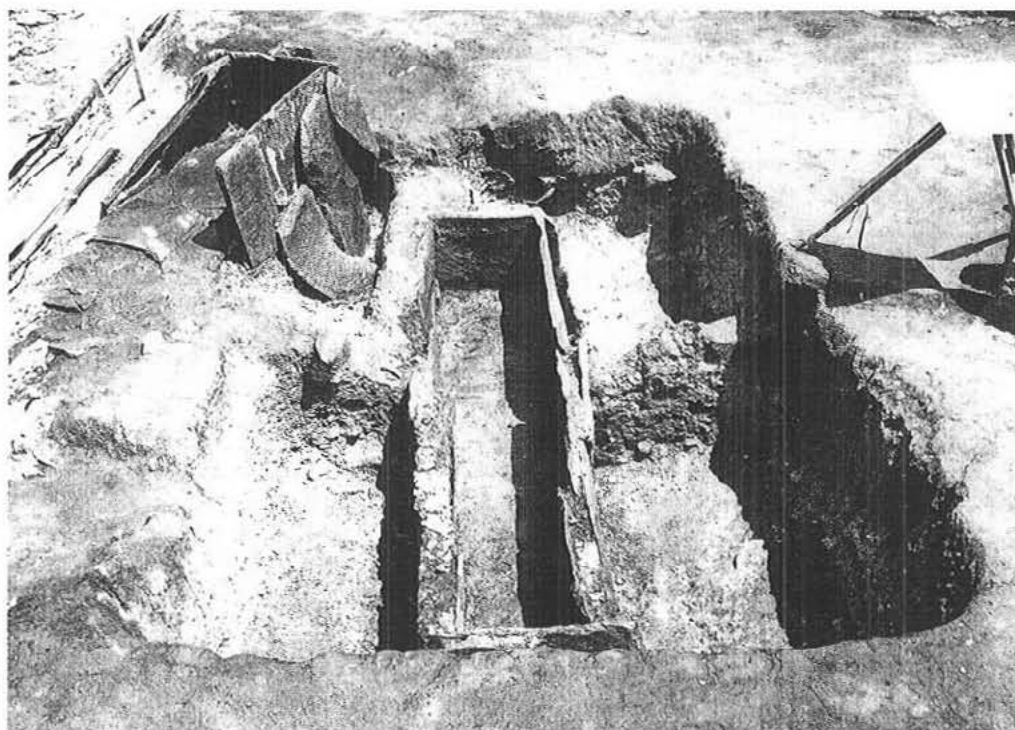


59. 石棺 棺床に石枕がすえられる。全長2.17m、幅78cm
後世運び入れられたものと推定される。

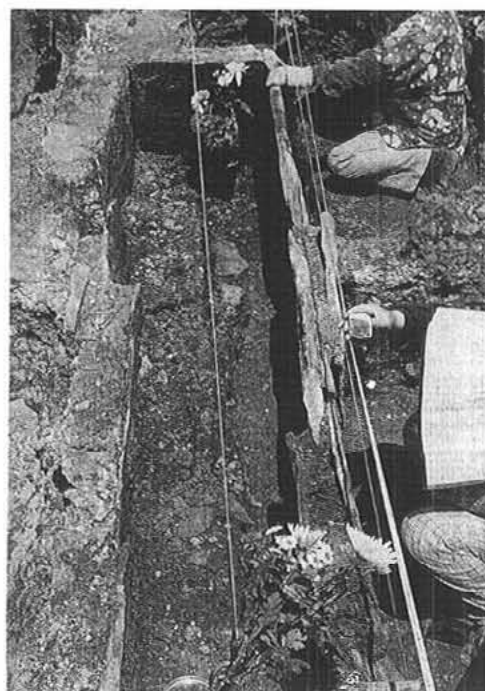


60. 同 実測図

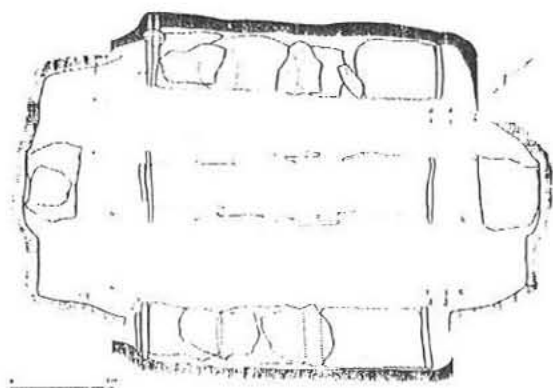
大之越古墳



61. 主軸方向を異にする上・下2つの箱式石棺



62. 下の石棺
2.75メートルの長大なものである。

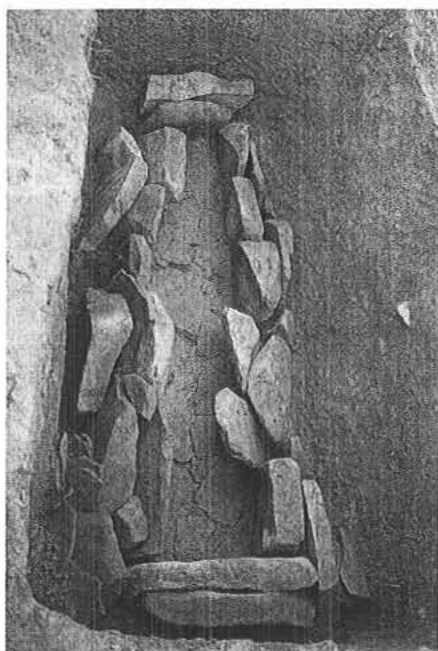


63. 同左 実測図
(山形県教委「大之越古墳」1979)

お花山古墳群

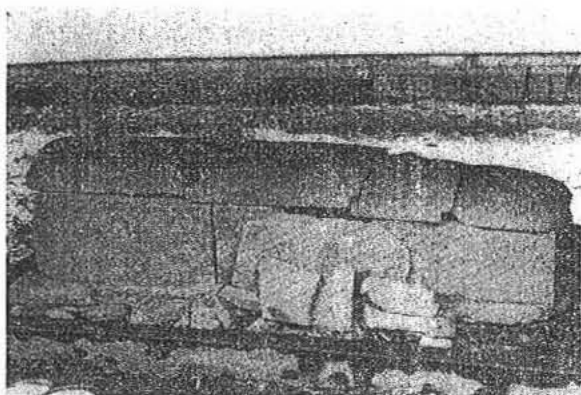


64. 木 棺 直 葬 (1号墳)



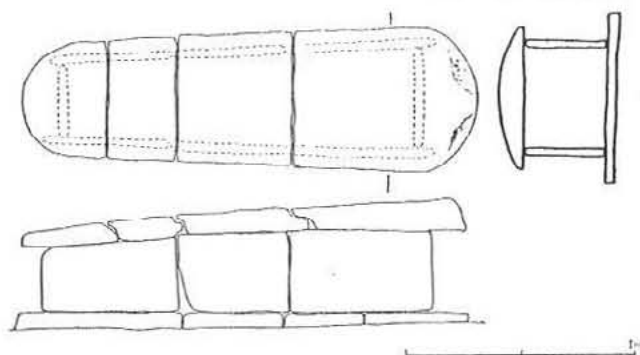
65. 箱 式 石 棺 (7号墳)

菱津古墳の石棺



66. 組合わせ式長持形石棺
(鶴岡市大山小学校新民館 保管)

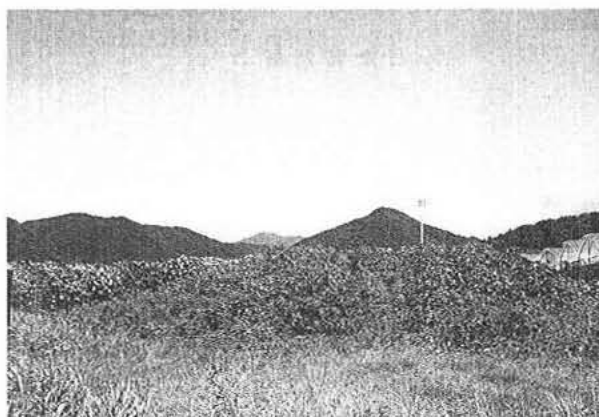
67. 同 実 測 図



4. 置賜の横穴式古墳

横穴式古墳は県内で置賜地域の米沢市北東部、高畠町東部から北部、南陽市北部などの山ぞいにのみ分布をみる。最大のものは、高畠町金原古墳で、径24メートルと、高さ4メートルの円墳で、玄室は凝灰岩切石の1枚石で構築される。奥行2.6メートル、幅2.3メートルで、南々西に長さ2メートルの羨道部が開口する。米沢市木和田古墳、南陽市二色根2号墳などは比較的規模が大きいが、おおむね玄室は4～5平方メートルの方形に近い形のものが多く、築造年代は7世紀後半から8世紀中葉のものが多く、6世紀代にのぼるものはない。多分渡来系の移民たちと関連する古墳であろう。

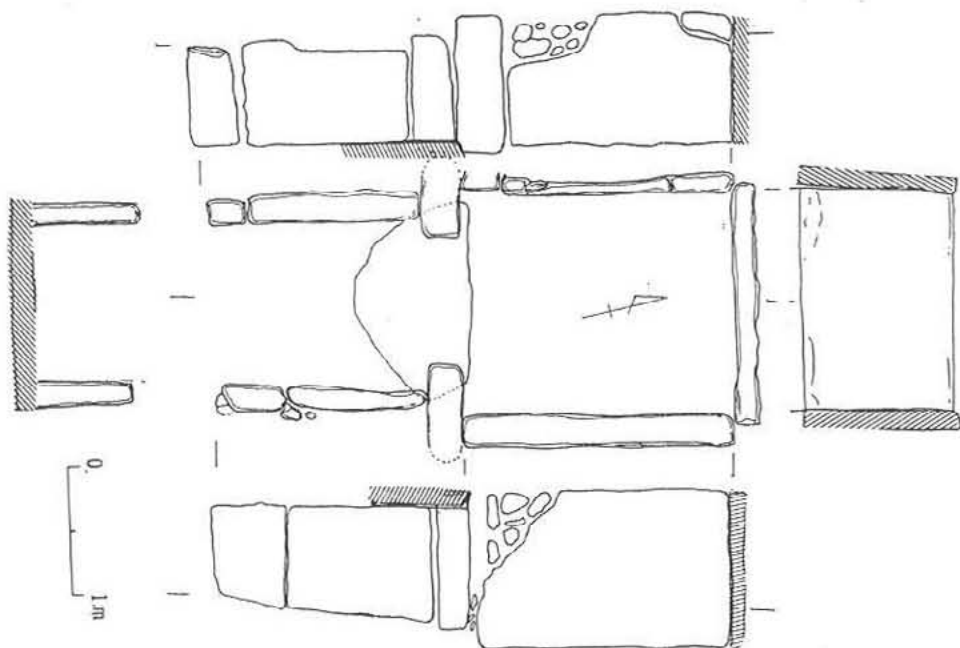
金 原 古 墳



68. 全 景



69. 玄 室

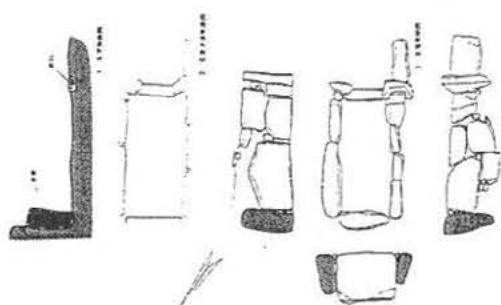


70. 石 室 実 測 図

木和田古墳



71. 石室

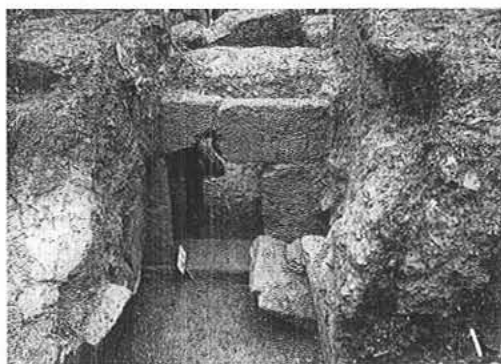


72. 石室実測図

長手4号墳



73. 石室

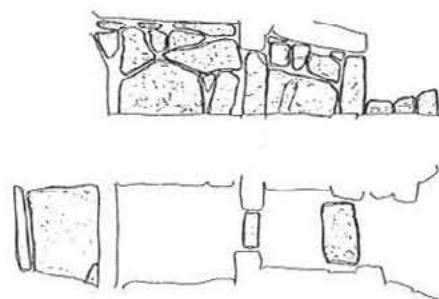


74. 玄関

鼠持古墳



75. 全景



76. 石室実測図 (高橋千晶による)

安久津 2 号墳

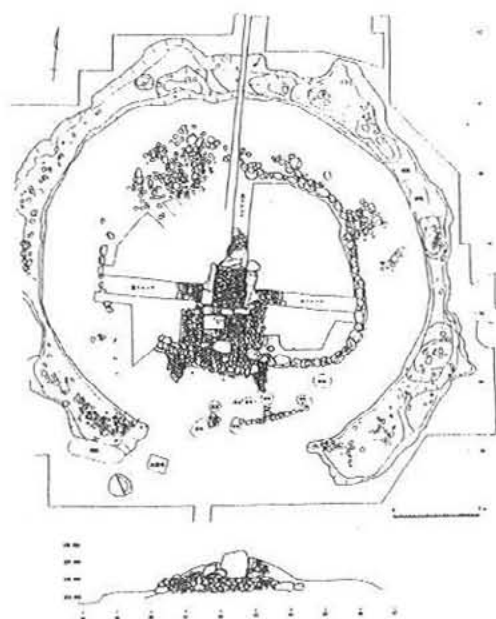
県指定史跡



77. 石室が露出している状態



78. 復原された 2 号墳

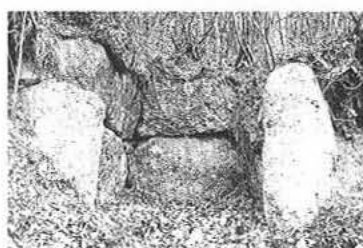


79. 安久津 2 号墳全体図

(高島町教委「安久津古墳群」1998)



80. 石室の状況



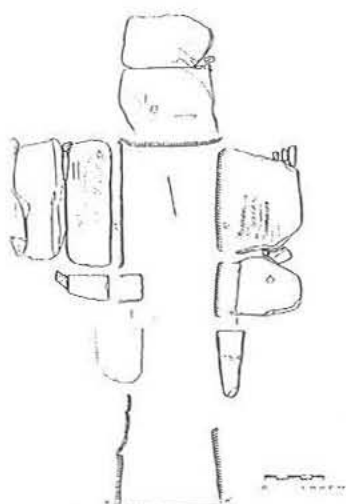
81. 1 号 墳



82. 2 号 墳



83. 3 号 墳

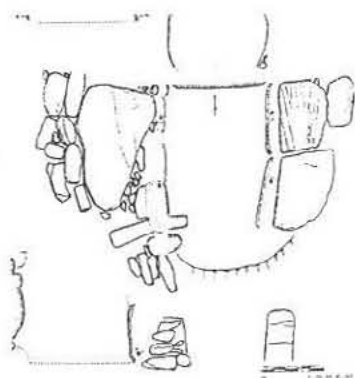


84. 1 号 墳

石室実測図



85. 2 号 墳



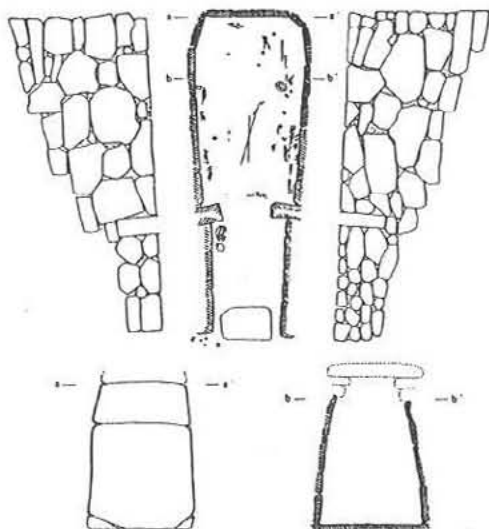
86. 3 号 墳

二色根 2 号墳

県指定史跡



87. 石室の現状

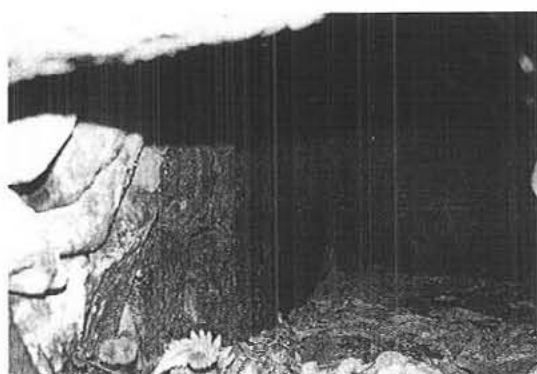
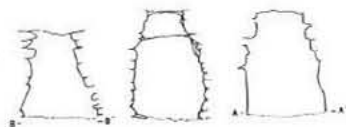


88. 石室実測図

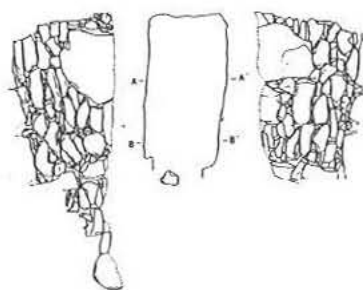
蒲生田山古墳群 1 号墳



89. 全 景



90. 石室内部

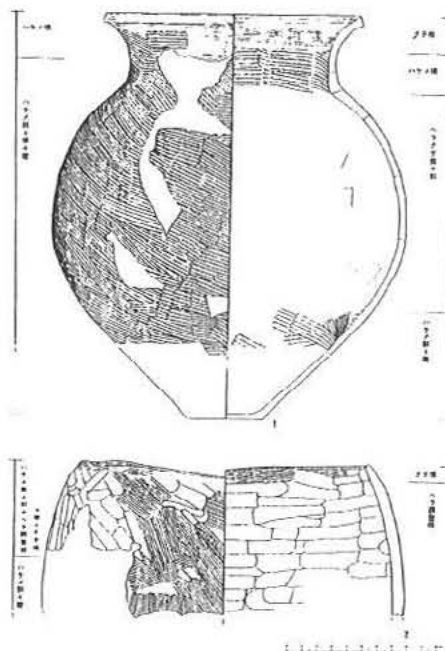
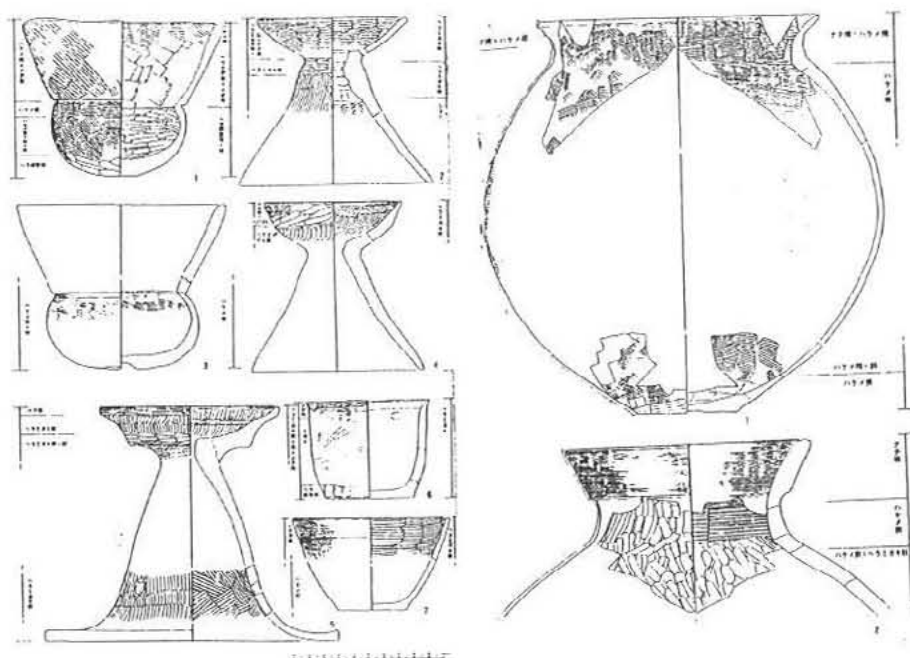


91. 石室実測図
(南陽市「南陽市史考古資料編」1987)

5. 古墳から出土する遺物

(1) 比丘尼平方形周溝墓及び周辺出土の遺物

(米沢市教育委員会所蔵)



92. (米沢市教委「比丘尼平遺跡」1988)

(2) 蒲生田山 3・4号墳出土の遺物 (南陽市教育委員会蔵)



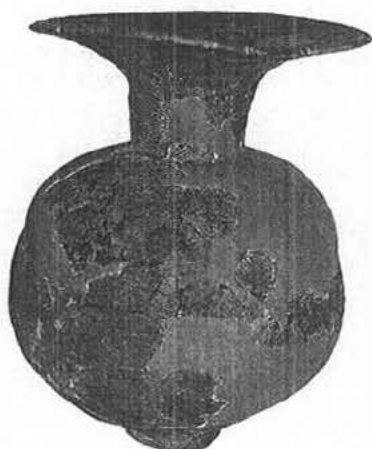
93. 底部穿孔朱彩壺 (高 21.9cm)
3号墳



94. 複合口縁壺口縁部
4号墳



96. 壺 (高 30.6cm)
4号墳

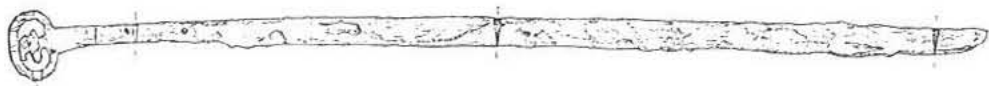


95. 底部穿孔壺 (高さ 27.1cm)
3号墳

(3) 大之越古墳出土の遺物 (山形県立博物館保管)



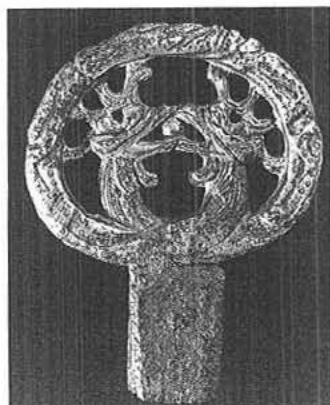
97. 環頭大刀・直刀・鉄剣



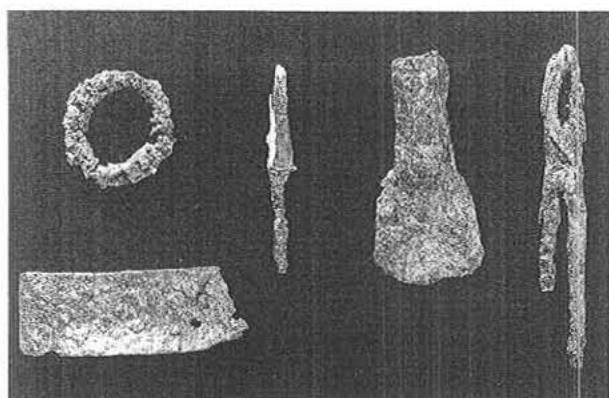
98. 同上 実測図



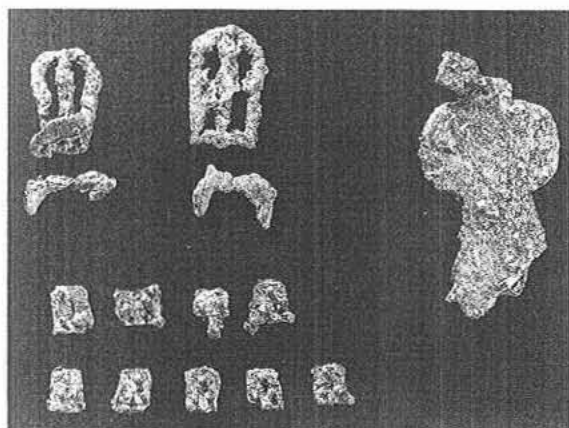
99. 環頭大刀柄頭



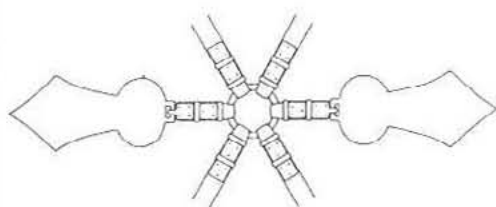
100. (参考) 伝鮭川村出土双竜環



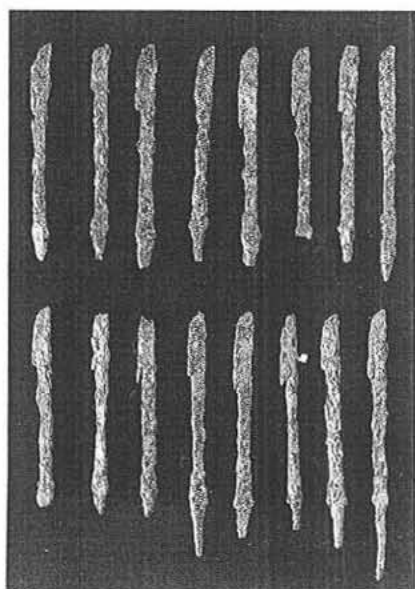
101. 遊環・刀子・鉄斧・鉏



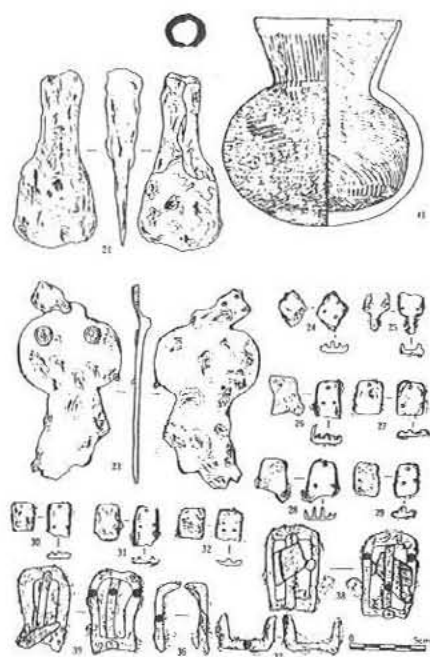
102. 鉸具・剣菱形杏葉・飾帶金具



104. 馬具想定復元図
(山形市教委「菅沢2号墳」1991)



103. 鉄 鏃



105. 遺物実測図
(山形県教委「大之越古墳」1979)

(4) お花山古墳群出土の遺物 (本館保管)



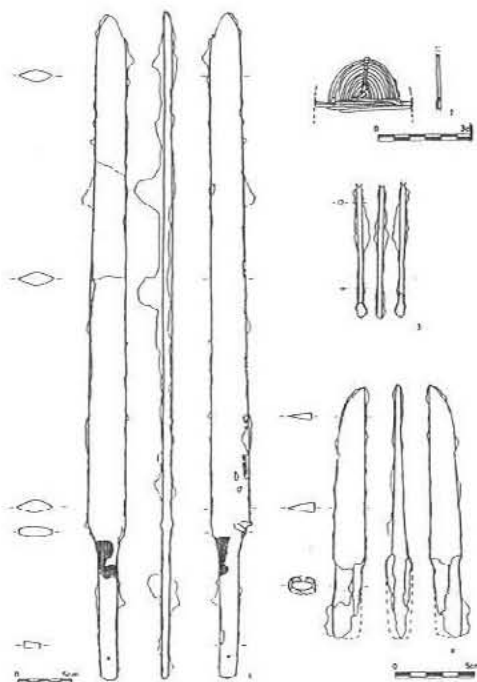
106. 変形振文鏡
(1号墳1号棺出土)



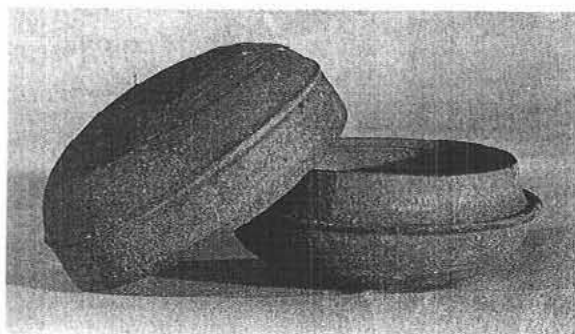
107. 乳文鏡
(22号墳出土)



108. 勾玉・管玉・小玉 (1号墳1号棺出土)

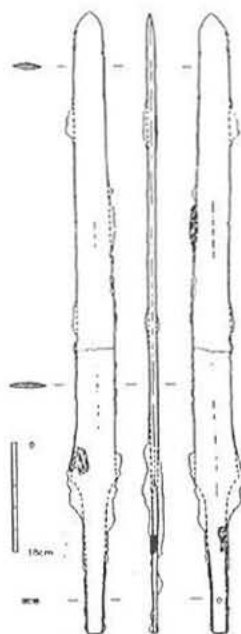


110. 1号墳10号棺出土遺物

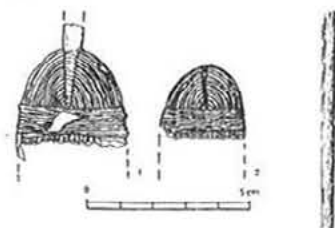


109. 須恵蓋坏 (出土墳不明)

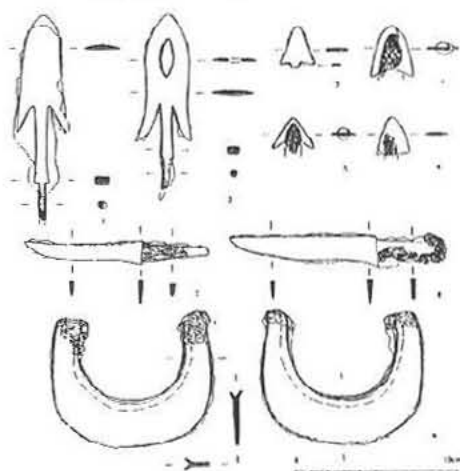
(5) 下小松143号墳出土の遺物 (川西町教育委員会蔵)



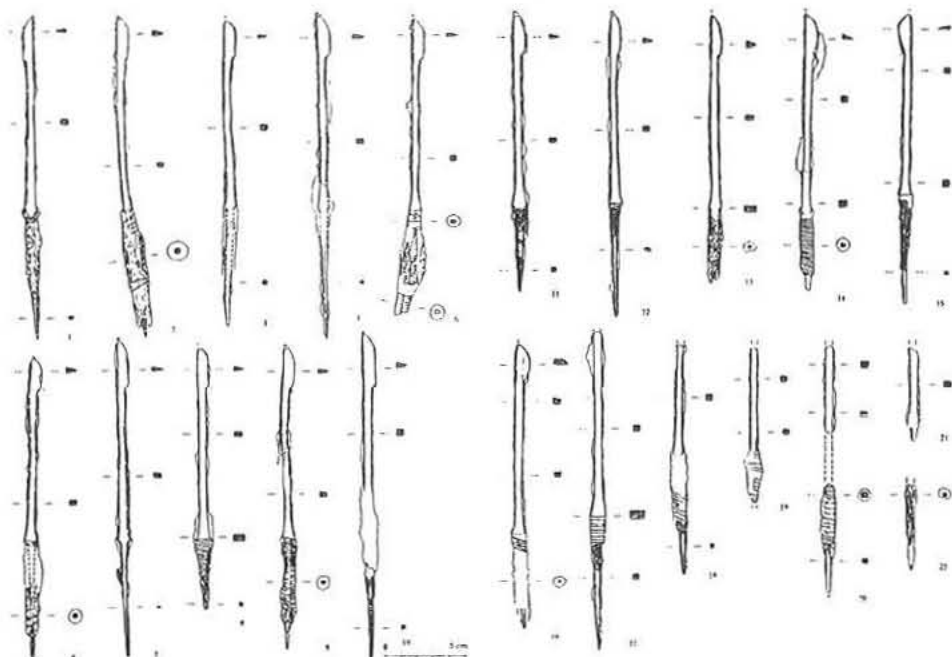
111. 鉄 剣



112. 豎 櫛

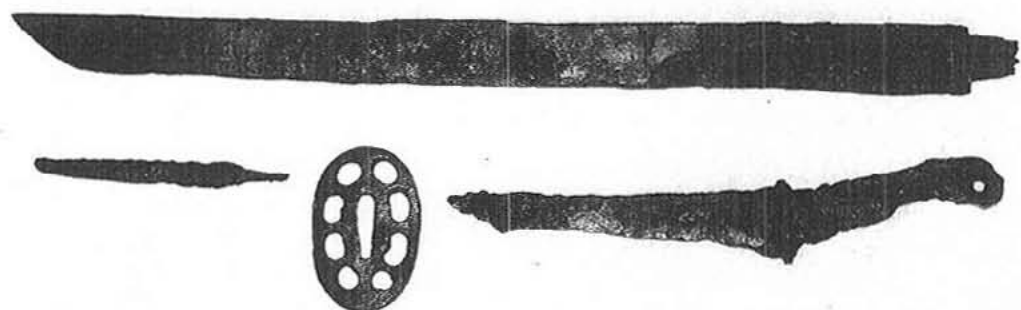


113. 鉄鏃・刀子・鐺先

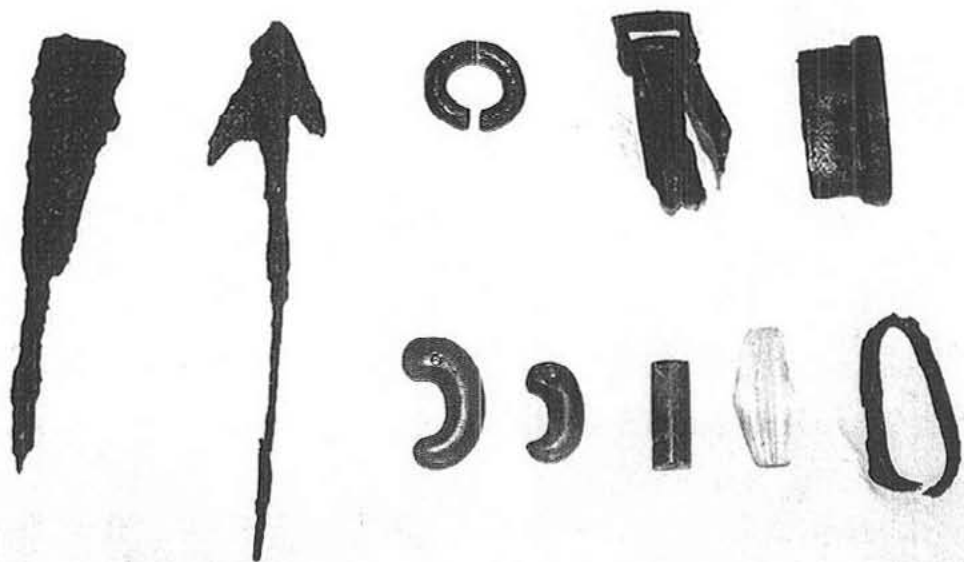


114. 鉄 鏃

(6) 安久津古墳群出土の遺物 (宮坂考古館保管)

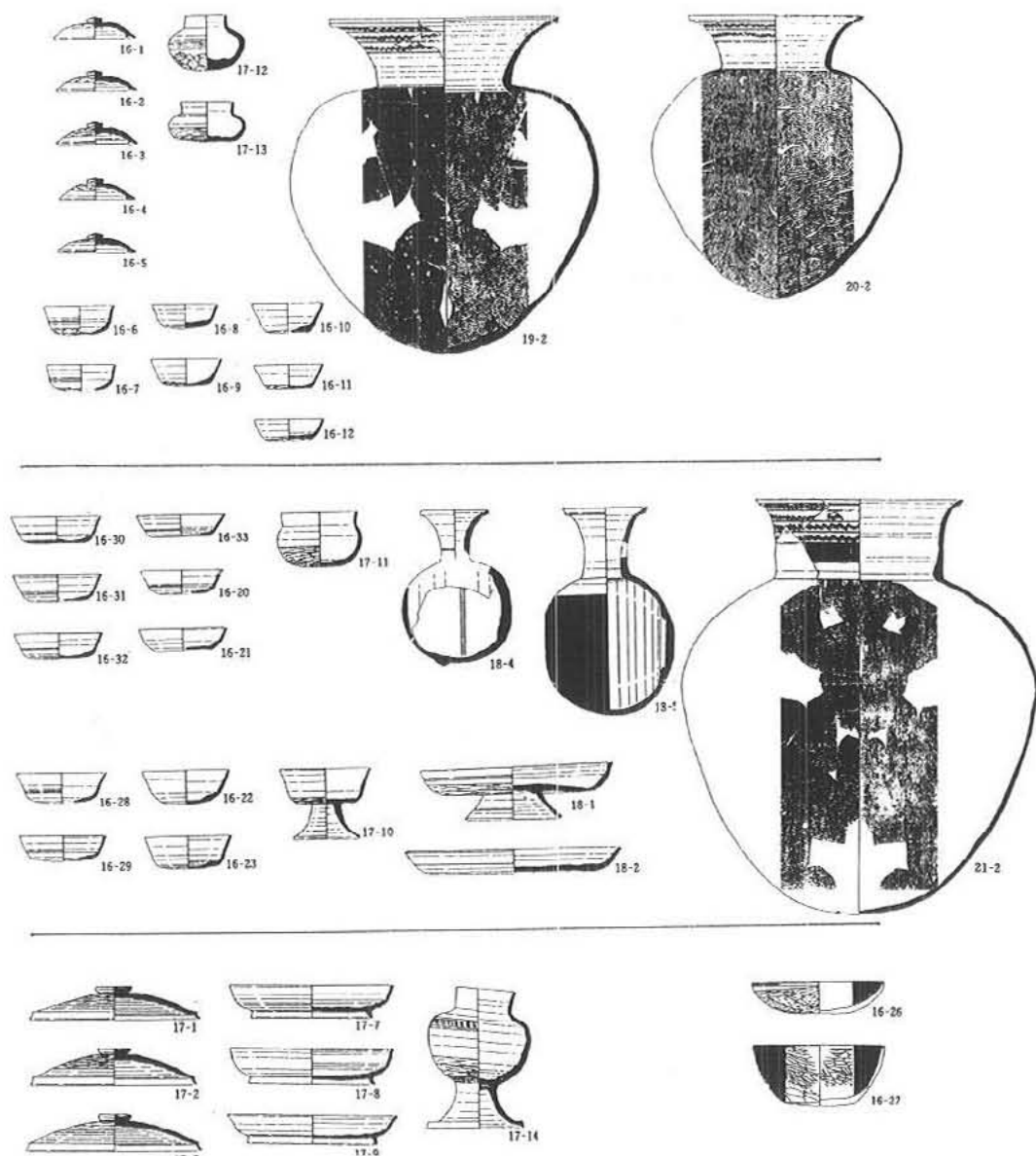


115. 直刀・藏手刀・八窓鐸・刀子



116. 鉄劍・銀環・足金具・玉類

安久津2号墳出土の遺物 (高島町教育委員会蔵)



117. (高島町教委「安久津古墳群」1998)

安久津2号墳では、羨門部より張り出す袖状施設下層より出土した土器群、前庭部上層出土の土器群、前庭部直上磔群中より出土した土器群で、それぞれ様式上の差が認められる。これは7世紀第3四半期から8世紀前半にいたる須恵器の変遷を示すものである。同時に築造時期が7世紀後半で、その後の追葬時に古墳の改変が試みられたことが判明した。

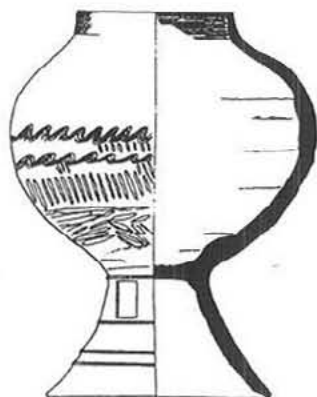
(7) 源福寺古墳群出土の遺物 (本館保管)



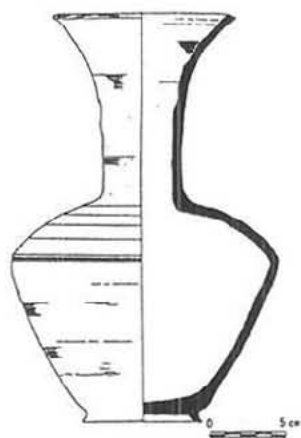
118. 台付壺



119. 長頸壺



120. 同上実測図

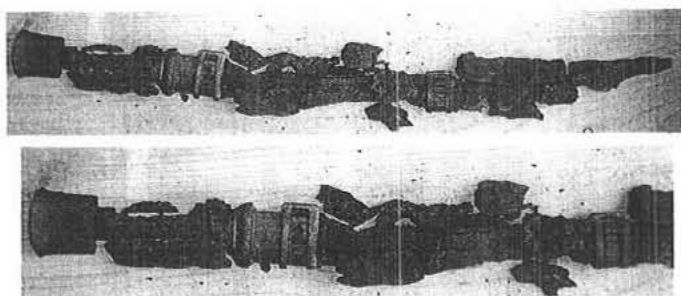


121. 同上実測図

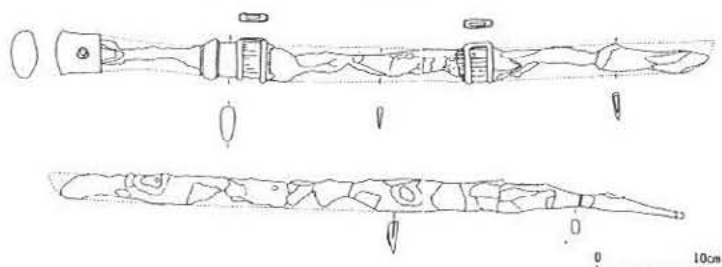


122. 直刀

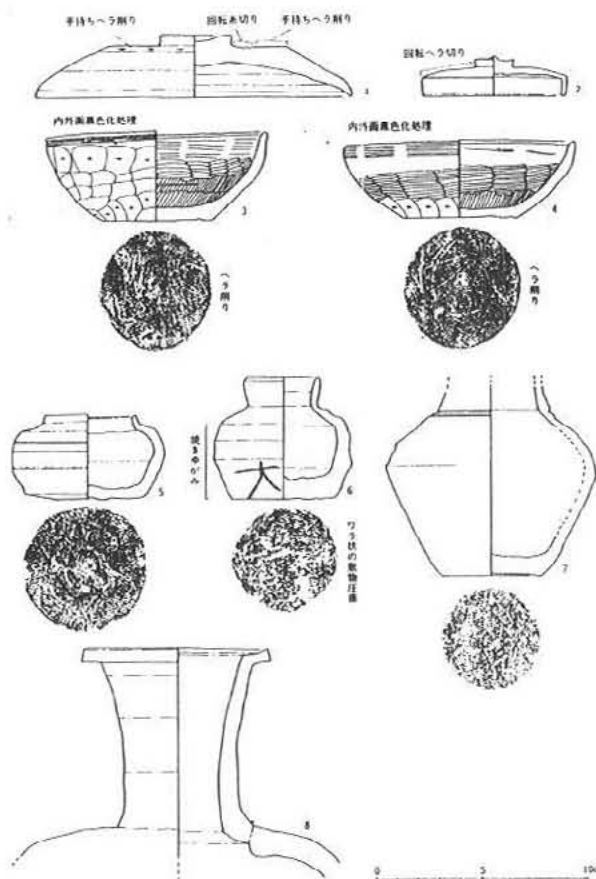
(8) 狸沢山古墳出土の遺物 (南陽市教育委員会所蔵)



123. 方頭大刀 (下は拡大)

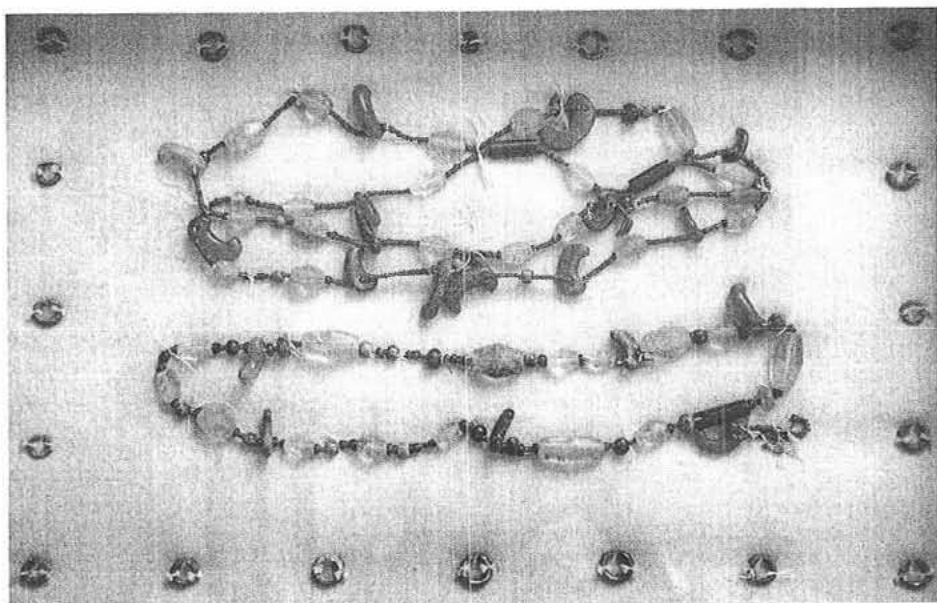


124. 同上 及び直刀実測図 (南陽市「南陽市史考古資料編」1987)



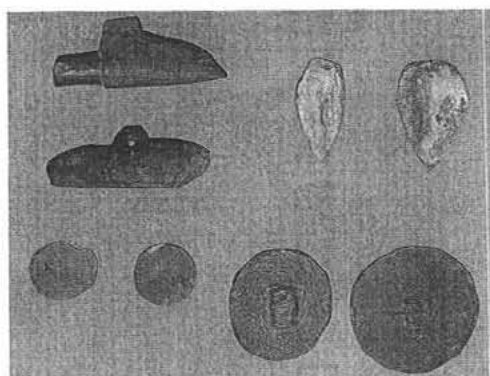
125. 土師器・須恵器実測図 (上に同じ)

(9) 羽山古墳出土の遺物



126. 玉類と耳飾り (高島町郷土資料館保管)

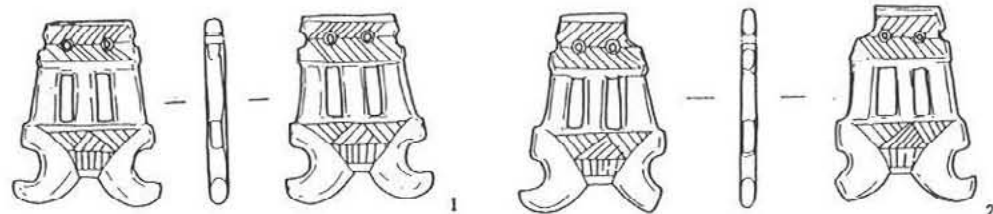
(10) 石製模造品



127. 尾花沢市上柳渡戸八幡山出土 模造品
(山形大学附属博物館保管)



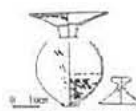
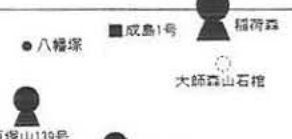
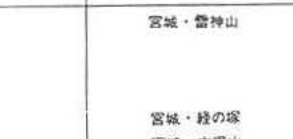
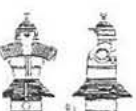
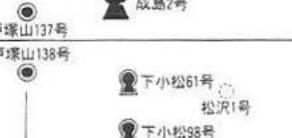
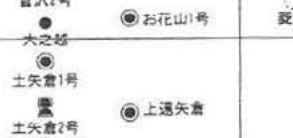
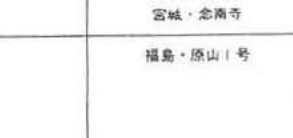
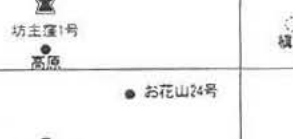
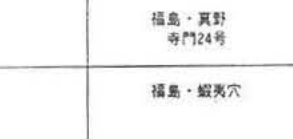
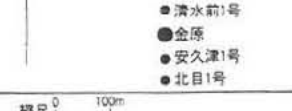
128. 尾花沢市上柳渡戸八幡山出土
鏡形模造品 (径 15.6cm)
(山形大学附属博物館保管)



129. 河北町下楨遺跡出土琴柱型石製器
(本館 保管)

(山形県教委「下楨遺跡」1981)

山形県古墳編年表

年	羽 前			参考とする古墳	備 考
200	米沢盆地	山形盆地	庄内平野		
300				福島・本屋敷 1,2号墳 福島・十九塚 3号墳 会津大塚山	 天神山古墳南側出土の埴形土器及び器 皿。藤生田古墳からのもは世紀中葉の古 出土。
400				宮城・雷神山 宮城・経の塚 宮城・大塚山 宮城・念南寺	 宮内2号墳出土埴形土器 円形埴輪はV式。(高さ72.8cm)
500				福島・原山1号 福島・真野 寺門24号	 土矢倉1号墳の須恵製 高坪(TN47)及び3号 墳の断面形埴輪
600				福島・蛭夷穴 宮城・上野	 金原古墳の横式石室 (切石並立組立式)
700					

「全国古墳編年集成」(石野博信編 雄山閣 1997)

羽前の部(川崎利夫作製)を付加・改変。

やまがたの古墳

川崎利夫

- 1、はじめに
- 2、山形県における古墳の分布
 - (1) 米沢盆地
 - (2) 山形盆地
 - (3) 新庄盆地
 - (4) 庄内平野
- 3、山形県域における出現期の古墳
- 4、地域の動向を考える
- 5、置賜地域の横穴式古墳をめぐって

1、はじめに

いまの山形県域は、東北日本の南半を占めその西端は日本海にのぞむ。かつての出羽国の南半である。吾妻連峰や飯豊連峰に源流をもつ最上川は南から北へ流れ、県北部において大きく西へ向きを変え日本海に注ぐ。最上川は山形県のほぼ全域をうるおす、まさに母なる川である。この川を中心に、南から米沢盆地、山形盆地、新庄盆地と連なり、これらの盆地群をへだてる出羽丘陵をへて、日本海にのぞむ庄内平野がひろがる。

これらの三つの盆地と一つの平野に主要都市があり、人びとの生活基盤をなしている。これは古代においても同じであろう。そしてやまがたの地は、原始・古代のむかしから南北の文化の接点でもある。古墳時代においても、山形県域は前方後円墳や埴輪を伴う古墳の日本海側の北限であり、方形周溝墓の北限でもある。したがって、大和連合国家の勢力が及んだ北端の地である。

以下、古墳の分布にふれながら主要な古墳の概要を述べ、その出現の意義、政治的動向、横穴式古墳の問題なども考えてみたい。

2、山形県における古墳の分布

古墳の分布状況を南の置賜盆地から庄内平野まで順をおって述べ、主要な古墳を紹介することにした。

(1) 米沢盆地

南を吾妻連峰、東を奥羽山脈、西を朝日、飯豊連峰など峻険な山岳によって画された米沢盆地は、古代において隔絶された地域で、いくつかの峠をへて陸奥や越後に通じていた。

この盆地の西部を占める西置賜地域の白鷹・飯豊・小国には古墳の分布がみられず、長井市の東に横たわる河井山に5世紀後半の小規模な円墳群が存在する程度である。しかし、白鷹町畔藤黒藤館跡から4世紀代の土師器を伴い、3基の方形周溝墓が発掘されているので、すでに古墳時代前期からの集落展開があったことが理解される。

盆地東側の米沢市と東置賜地域には、顕著な古墳の分布をみる。その数は700基を下らないであろう。なかでも50メートルをこえる比較的大型の古墳は、米沢市寶領塚前方後円墳(76メートル)、戸塚山139号前方後円墳(54メートル)、成島2号前方後円墳(60メートル)、川西町天神森前方後円墳(75.5メートル)、南陽市稲荷森前方後円墳(96メートル)の5基を数える。

これらの古墳が存在する周辺または近傍の地域は各時期にわたる古墳の密集地帯である。まず、米沢市域では市街北部にそびえる標高356メートルの戸塚山とその西側の平地部に、顕著な分布をみる。戸塚山山頂に全長54メートルの前方後円墳(139号墳)、その東側に帆立貝式の138号、137号墳が並んでいる。そのうち24メートルの137号墳は1982年に米沢市教委によって主体部の発掘調査が実施された。箱式石棺の中から熟年女性人骨に

伴って堅櫛3点、鹿角製装具つきの刀子などが発見された。この古墳の年代は6世紀後半とみられる。

これらの古墳を中心に山腹や山麓に9支群にわたる193基の円墳を主とした古墳群が分布する。山麓部のものは横穴式石室を主体とし、8世紀代の終末期に及ぶ。

これらの戸塚山古墳群形成以前の古墳として、戸塚山西側の水田中に全長75メートルを越す竇塚がある。これはいま前方部が失われているが、一部に葺石の痕跡を残し、4世紀代の東北有数の規模をほこる古墳である。そして戸塚山に至る窪田集落内には径26.5メートルの円墳八幡塚と小円墳よりなる窪田古墳群がある。

さらに鬼面川を越えた広幡地区には60メートルの整った前方後円墳成島1号墳を中心に方墳5基と円墳1基よりなる成島古墳群がある。

最上川の西部の川西町上小松に天神森古墳が4世紀代に出現し、その北西部の下小松古墳群は、眺山の丘陵地帯に分布するが、179基よりなり、その中に20～30メートルの小型ではあるが、19基の前方後円墳をふくむ。下小松古墳群は3支群よりなり、今年国の史跡に指定された。またその北側に位置する雁境古墳群は小方墳群3基であるが、最近の調査で4世紀代の遺物が出土している。

置賜盆地北東部の南陽市・高島町には、県下最大の南陽市稲荷森前方後円墳（国指定）を中心に、その前身ともみられる蒲生田山古墳群があり、3基の20メートル台の前方後方墳が確認されているが、うち2基は失われてしまった。その西側の白鷹丘陵南端には24基の前方後方墳・方墳・円墳よりなる梨郷古墳群があるが、未調査のため詳細は不明である。

高島町時沢大師森山中腹の岩窟中に長持型組み合わせ石棺が納められてあるが、安然大師の入定窟とされている。後世に近くにあった古墳より発掘されたものを運び入れたものと推測される。石棺には棺床に石枕がすえられ、側壁には朱彩が施されている。5世紀前半の古墳の存在を暗示する。

米沢市の東部から高島町・南陽市の山麓は横穴式石室をもつ終末期古墳が数多く分布する。南陽市蒲生田山1号墳・二色根古墳群から烏帽子山・長峰・取上坂に続き、高島町に至り立林・羽山・北目・源福寺・味噌根・安久津・鳥居町・塩ノ森・金原・清水前・亀岡・滝の下・鼠持などから米沢市に入り、長手・天神裏・木和田・牛森と続く。いずれも凝灰岩の切石や割石で石室が構成されているが、蒲生田山1号・鼠持・牛森などは他の石材を用い、川原石、野石などを乱石積みにしたものもある。これらはおおむね7世紀後半から8世紀にかけてのものであり、6世紀代のものは

今のところ認められない。

前期の4世紀代の方形周溝墓は、1978年に米沢市比丘平で2基発掘されたのが最初で、その後同じく米沢市八幡堂遺跡で5基、同上浅川遺跡で15メートル前後の大型のものが1基、白鷹町黒藤館跡より3基検出されているが、弥生時代にさかのぼるものはない。

これらの古墳の分布状況やその年代は、北関東や陸奥南半と共通する点が多く、特に200基前後の古墳が点在する米沢市戸塚山古墳群や川西町下小松古墳群は、国家形成期における地域の社会や文化をさぐる上できわめて重要である。

(2) 山形盆地

最上川中流域の山形盆地には、まず南端の上市市に17メートルの前方後円墳と2基の円墳よりなる土矢倉古墳群があり、6世紀中葉を中心とした古墳と推定され、円筒埴輪や人物埴輪も検出されている。

山形市西部の出羽丘陵山麓地帯には、特徴的な古墳の分布をみる。それは山形市から山辺町、寒河江市に至る。谷柏古墳群・菅沢古墳群・大之越古墳・速見堂古墳群、そして山辺町根際古墳群・大塚天神古墳・坊主窪古墳群から最上川をへだてて寒河江市高瀬山遺跡の方形周溝墓群や高瀬山古墳群、さらに北にのびて村山市河島山古墳群や北限の古墳とみなされる名取古墳までつく。

なかでも菅沢2号墳は、50メートルの大型円墳で円筒埴輪がめぐり墳頂より家・楯・劔・短甲・甲冑型などの器埴輪が出土した。5世紀後半代の古墳とかがえられている。また、その1キロ北にある大之越古墳は、箱式石棺が上下に2基出土し、単鳳環の大刀、剣菱型杏葉・鹿角装具付大刀や長大な剣・鉄斧などが発見されている。5世紀末の古墳と考えられるが、5世紀にすでに騎乗の習いがあったことを示している。

さらに最近注目されるようになった山辺町南部の大塚天神古墳は、菅沢2号墳に匹敵する50メートルに近い規模の円墳で、周濠部などから出土する埴輪は4世紀後半という指摘がなされている。そうすればいまのところ村山盆地では最古の古墳ということになる。

その北4キロの丘陵部に所在する坊主窪1号墳は全長27.5メートルで、日本海側北限の前方後円墳である。そして、最上川東側の丘陵村山市河島山にある河島山1号墳は箱式石棺を主体とする小円墳であるが、その北に位置する名取古墳は径37メートルの二段築成の円墳で、その下を最上川が流れている。6世紀代の後期古墳で、内陸部北限の古墳時代の古墳である。

村山盆地平地部にも山形市に稲荷塚・宮町七浦・衛守塚、天童市に上・下遠矢塚など20メートル前後の規模をもつ円墳があったが現存しない。6世紀代の後期古墳が主であるが、北部の東根市大塚古墳は50メートル規模の前方後方墳で、5世紀前半の古墳と見る向きもある。平地部における古墳は大方消滅し、旧状をとどめない。

奥羽山脈を背後にする東側山麓部でもっとも代表的な古墳は山形市お花山古墳群で、東北横断自動車道にかかるため24基の小円墳が発掘されている。主体部は木棺直葬によるものと箱式石棺のものがあり、前者がやや古いうで、振文鏡と乳文鏡各1面の他刀子・鉄鍬・帯金具・玉類などが副葬品として出土している。5世紀末より6世紀にかけての古墳群とみられる。なお近くには箱式石棺を主体とする高原古墳群や上の原古墳がある。

なお村山盆地における古墳の北限は前述の村山市名取古墳であるが、古墳時代の集落そのものは少なくなるもののもっと北にも分布がみられる。尾花沢市上柳渡戸八幡山山頂からは大型の鏡を含む剣・刀子・有孔円板・勾玉・斧・鎌など173点の石製模造品が出土している。

村山盆地における古墳の様相は、置賜盆地の場合とかなり異なる点が多い。前方後円墳や前方後方墳は、疑問のあるものも含めて3～4基で少ない。置賜盆地では全くみられない埴輪古墳があること、横穴式石室を主体とする古墳が存在しないことなのである。

(3) 新庄盆地

北に流れる最上川が大きく西へ向かって屈曲する新庄盆地を中心とする最上地域には、古墳の分布は知られていない。内陸部では村山盆地北部までが分布圏内である。本県北部のこの地域は、古墳時代の集落跡も乏しい。

(4) 庄内平野

日本海にのぞむ庄内平野は南部の田川地域と最上川より北の飽海地域に区分される。古墳時代集落跡は、鶴岡市西部から南部にかけて4世紀にさかのぼる例もあり濃密な分布がみられる。飽海地域では酒田市関B遺跡など前期の集落跡も発掘されているが、南半に比較して相対的に少ない。古墳も北部では確かな例はない。

南部では鶴岡市西部の菱津古墳があり、明治末年に掘り出された長持型組合せ式石棺が知られている。凝灰岩を加工したもので、底石には溝があって側壁3枚をはめ込むようになり蓋石に縄掛突起

の痕跡があり、5世紀後半と推定される。また最上川に近い余目町槇島の河岸段丘から箱式石棺が発見されている。

庄内平野の東を限る出羽丘陵の西麓台地の藤島町添川に20メートル規模の円墳が2基丘陵突端に立地する。その下の平地部には4世紀の土師器を出土した三和遺跡がひろがる。

庄内地域で確認できる古墳は以上の通りで数は少ないが、今後の調査によってふえる可能性がある。

3、山形県域における出現期の古墳

弥生時代の暦年代が年輪年代法などの開発によって従来より溯ることや前期古墳から出土する「三角縁神獣鏡」の分析や編年が進むことによって古墳の出現期を250年に近い3世紀後半とみる説が有力である。奈良盆地東南部の桜井市箸墓古墳・天理市中山大塚・西殿塚古墳などは定型化された最初の方後円墳とみられる。箸墓古墳は280メートルの方後円墳で卑弥呼の墓ともいわれてきたものである。

東北地方でも福島県会津盆地において仿製三角縁神獣鏡が出土している114メートルの会津大塚山古墳を中心に、さらにそれに先行すると考えられる堂ヶ作山古墳、会津坂下町杵ヶ森古墳などが出現期の古墳として注目されている。

会津大塚山古墳が築かれるその前後に山形県南部の置賜盆地にも前方後円墳や前方後方墳など定型化した大型の古墳が出現する。その年代は4世紀後半とするのが妥当であろう。さきめて最近米沢市天王川にのぞむ丘陵端より4世紀中葉とみられる木棺直葬の横山古墳が発掘された。13メートルほどの古墳で、竇塚以前の古墳とみられる。

米沢市の北部、松川と鬼面川に囲まれた現水田中にある竇塚古墳は、いま前方部が失われたが、地籍図などによる復原で、全長79～80メートルの前方後円墳であることが確かめられている。いま残存している後方は長さ40メートル、幅44メートル、高さ4.8メートルの三段築成で葺石が認められる。前方部は大きく擬型に開く墳型と考えられている。

最上川の西部の川西町上小松に所在する天神森古墳も全長75.6メートルの前方後方墳で、後方部長さ43メートル、幅51メートル、高さ4.26メートルに32.5メートルのやや短い前方部が擬型に開く。墳丘部は明瞭な版築が認められ、くびれ部の近くから底部穿孔の壺が出土している。

置賜盆地の北を画する白鷹丘陵南端には、3基の前方後方墳が丘陵突端部にある。1990年南陽市

教委によって調査された蒲生田山3号墳は全長29メートルで、上部は削平されていたが周濠がめぐる。それに向き合う形で4号墳が並んでいるが、周濠のみ残存していた。周濠部からは4世紀前半代の土師器壺などが出土している。おそらく屋根上部より3号→4号→2号の順序で築造されたものと考えられる。2号墳のみ現存する。4世紀中葉を前後とする古墳群であろう。

これら蒲生田山古墳群の3キロ南の平地部微高地に県下最大の前方後円墳稲荷森古墳（国指定）がある。全長96メートル、後円径62メートル、高さ10メートルで、それに長さ34メートルの高さ5メートルの前方部が付く。平地部にのびる丘陵を断ちきって整形し、その上に盛土したもので、後円部三段、前方部二段築成で、初段部は丘陵を整地したものである。周濠は認められないが、後円部墳丘盛土より4世紀後半の器台型土師器、後円部墳麓より4世紀後半の土師器片が出土しているから4世紀末の築造年代が考えられる。

このように置賜盆地においては、4世紀の中葉から後半にかけて、南の米沢市域に寶領塚古墳西に川西町天神森古墳、北に南陽市蒲生田山古墳群から稲荷森前方後円墳が築造される。これら3地域に大きな時期差がなく古墳時代前期の古墳が出現したことになろう。

一方はほぼ同時期かと思われる墓制に方形周溝墓があり、米沢市比丘尼平・八幡堂・上浅川・白鷹町黒藤館跡などにおいて11基の方形周溝墓が検出されている。この中には一辺20メートルから5～6メートルのものまで多様であるが、出土土器などから4世紀代に営まれたことは明らかである。

これまでは方形周溝墓より前方後円（方）墳への発展という構図で考えられてきたが、両者はほぼ並行して存在したことになる。最近調査された川西町下小松古墳群の北側に位置する雁境古墳群は3基より構成されるが、そのうち1基は木棺直葬の主体部をもち、4世紀代の土器や鉄製品が出土したと伝えられる。

置賜地域に古墳が出現する4世紀中葉より後半にかけては、前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳・方形周溝墓と多様な墓制があり、首長墓としての大型の前方後方墳や後円墳は三つの地域にほぼ時期を同じくして出現したのである。

それより以前の3世紀前半は、弥生時代後期で、天王山式といわれる縄文色の強い土器が使用され、再葬墓や甕棺墓などの墓制が行われていた。それから100年近いあいだにどのようなドラマが進行したのであろうか。人と物の交流がきわめて盛んに行われたことは、4世紀代の土器に北陸や関東系の土器が混在することからもうかがえる。

なお村山盆地でもっとも古い古墳は山辺町大塚

天神古墳とみられ、出土した円筒埴輪が川西編年の2期に当たることから4世紀後半の築造とみられる。50メートル規模の円墳と考えられている。庄内地方の数少ない古墳のなかでも、前述の添川古墳などは前期の円墳である可能性が大きい。

4、地域の動向を考える

4世紀の中葉より後半にかけて県内ではまさに突如として高塚の古墳が出現する。それらは多様な墳形と規模をもつ。これらは地域の首長が恣意に造営できるものではなかった。定型化された前方後円墳や前方後方墳は、奈良盆地を中心に畿内に成立した大和連合国家との同盟や服属関係を示すものに他ならない。直接的な初期大和政権の支配に属するとは考えにくい。東国への勢力拡大や経営をゆだねられた北関東の毛野氏、または会津盆地や仙台平野などの首長層による勢力が4世紀代に山形の地域に及んだことを示唆する。

東日本における出現期の古墳は、前方後円墳よりも前方後方墳が多い。前方後方墳については、東海地方から大和政権によって各地に派遣された将軍たちの墓とする説や、大和連合国家の前身のヤマトイ国連合の段階で、ヤマトイ国と対立していた狗奴国連合と関連をもつ首長墓とする考えるむきもある。前方後方墳に100メートルを越すような大型古墳が少ないことや副葬品などから初期大和政権に二次的に組み入れられた身分秩序のあらわれと解する説もあり、その性格をめぐってははっきりした結論には達していない。

ともあれ置賜の3つの地域に前方後円墳と前方後方墳が時期差がなくほぼ同時に成立していることは、三つの大きな政治集団がそれぞれの地域を支配し共立していたことを示している。置賜地域の古墳に埴輪を用いたものがないことや前方後方墳において後方が横長であることなど会津盆地の古墳に共通する様相を多くもつ。また古式の土師器に北陸系のものが見られることなどから、北陸から会津盆地をへて置賜に至るルートが考えられる。前方後方墳などにみられる70メートルをこえる規模の大きさは、まさに東北地方では最大であり、有力な政治勢力の存在が考えられる。

このような大型の古墳と同じ時期に円墳や方形周溝墓が並行して存在する。これらは首長層のさうに下に位置する階層の古墳であろう。とくに方形周溝墓は、弥生時代以来の土着の有力者の墳墓であったのだらう。

置賜盆地の北部と南部の米沢市域と最上川西部を基盤とする3つの政治勢力は、時に勢力が拮抗することがあっても、比較的安定した共存の体制

を維持しながら律令体制の確立まで存続するのである。

米沢市寶領塚の後は、八幡塚や窪田古墳群をへて、戸塚山山頂をはじめその周辺に古墳群が営まれる。川西町天神森古墳が営まれた後は、それより西北部の眺山丘陵に移り、前方後円墳19基をふくむ下小松古墳群が営まれる。

北部において南陽市稲荷森古墳の後に高島町大師森山の岩窟中の長持型組合せ式石棺、さらに梨郷古墳群、河井山古墳群、松沢古墳群などをへて高島町北東部の横穴式石室を主体とする終末期古墳群に連なる。

このように置賜盆地では3つの地域において、ほぼ順調に6世紀末まで古墳が営まれるのである。そしてこれらの地域は、再び中期以降に首長墓は小規模ながら前方後円墳が営まれる。これはいっそう大和政権による地域支配が強化されたことを示している。7世紀後半に律令体制にスムーズに移行が果たされたのも前代からの歴史的過程が影響するのであろう。

最上川中流域にあたる山形市を中心とする村山盆地は、南の置賜盆地とはやや事情を異にする。古墳の分布も北に向うにつれて希薄になる。日本海側北限の前方後円墳は、山形市の西の山辺町坊主窪1号墳であり、北にひろがるエミシの地と直接境界を接する地域だけに、山辺町大塚天神古墳のように4世紀にすでに埴輪をめぐらした古墳が出現する。

またその南に位置する山形市菅沢2号墳は東北地方の円墳では最大規模をほこり、円筒埴輪はもとより大量の器形埴輪を伴う。埴輪古墳ではもう1基土山土矢倉2号墳を数えることができる。菅沢2号墳は5世紀第3四半期、土矢倉古墳群は6世紀中葉の築造と考えられる。菅沢古墳群の1キロ北に位置する山形市大之越古墳は径14.5メートルとさほど大きくはないが、単鳳式環頭大刀をはじめ直刀・鉄剣・鉄斧・鉄鉗・刀子・剣菱型杏葉・紋具・遊環など馬具が発見され、多量の鉄製品が出土した古墳として注目される。これらの副葬品は大和政権との関連があったことを示すものであり、同盟や服属に対して北辺の首長に下賜されたものであろう。大之越古墳は2基の箱式石棺を内部主体とするが、5世紀末から6世紀初頭の年代が推定される。

大塚天神古墳から菅沢2号墳にいたる村山盆地の広域支配は、5世紀後半から6世紀にかけて各水系ごとに円墳を主とする中小首長の抬頭によって揺らぎはじめる。上山市域に土矢倉古墳群、盆地東部に山形市お花山古墳群、西に谷柏・速見堂・高瀬山・中央部に衛守塚古墳群・天童市域に遠矢塚・火矢塚古墳群、さらに北部に名取・河島

山古墳群が出現するに及び、各小地域ごと中小首長による支配体制が形成されることになる。これらは国内における継体・欽明朝の内乱や武蔵国造の反乱と無関係ではなかったと思われる。

村山盆地の古墳は、その南の置賜地域とはかなり様相を異にする。前方後円墳は少なくようやく6世紀以降に出現をみる。内部主体も木棺直葬から箱式石棺が後々まで定着する。埴輪を伴う古墳があることも著しく違う点であり、政治的・文化的にも置賜盆地とはへだたがりがあり、むしろ陸奥側の仙台平野と強い関連があったのであろう。

庄内地域においては、前期に遡る集落跡からの出土遺物や住居形態などから北陸方面からの強い影響が考えられ、菱津石棺のように首長墓としての古墳も前期より出現していたものと考えられるが、その動向について述べるほどの資料の集積が進んでいないので、これからの課題としておこう。

5、置賜地域の横穴式古墳をめぐって

山形県内で横穴式石室を主体とする古墳の分布は、置賜盆地の一部に限定される。盆地東側奥羽山脈にそった米沢・高島、北の白鷹山系南麓の南陽市域の一部である。その規模も高島町金原古墳の24メートルを最大にして、10メートル前後の小円墳が多い。その数は現状で300基は下らないであろう。

これまでその構築年代や性格などについていろいろな論議が行われてきた。年代についても6世紀後半の古墳時代後期に出現したとする見解もあり、使用尺度や構築法から他地域との比較によって年代を割り出すことも試みられている。追葬される例もまみられることから、使用された年代が複数回に及ぶこともあり、構築時期の推定は必ずしも容易ではない。

石室の構築にあたっては、奥壁・両側壁ともに1枚の切石をもって構成するもの（直立基底石A型）、直立する基底石上に2～3段の切石を重ねて構成するもの（直立基底石B型）、直立基底石上に割石や野石を多段に積み上げたもの（直立基底石C型）、割石や野石を多段に積み上げたもの（割石多段積型）などがある。これらの構築法は時期差というよりも近くに石材が在るかどうかの石材の多寡によるところが多い。

石材が近くにおいて容易に得られる高島町の古墳はほとんど直立基底石によるもので、A型は金原、B型は安久津・清水前・源福寺、C型は羽山・鼠持・鳥居町9号・北目1号などがその例となろう。南陽市蒲生田山1号や米沢市牛森もC型に近

い。C型は持ち送りで積み上げられるものもあって、玄室上部はややせばまる場合が多い。割石も多段積みにする例は南陽市二色根2号墳にみることができる。

玄室の平面形は、二色根2号にみられるように奥行き2.4メートル、幅1.3メートルの長方形のものもあるが、金原古墳のように奥行き2.6メートル、幅2.3メートルと方形に近いものが多い。米沢市木和田古墳は直立基底石B型で、奥行き3.5メートル、幅1.6メートルの長方形であった。また、牛森古墳は長さ1メートルに幅3メートルで横に広い玄室で、羨道がT字型に付されていた。

高島町の考古資料館の構内に復元された安久津2号墳は22.5メートルの円墳で、周濠がめぐり、それは南側で途中で切れて前庭部を構成する。墳丘の基底部には羨道が開口する南側を除いて角礫凝灰岩の外護石がめぐる。玄室は直立基底石B型で奥行き2.4メートル、幅2メートル前後で、それに長さ2.2メートル、幅1.2メートルほどの羨道をもつ。

たまたま前庭部において羨道部よりのびる袖石状遺構があり、その下層より出土した須恵器類は7世紀第3四半期に相当する遺物であった。それは袖石の存在によって前庭部上層より出土した須恵器群と層位上も明確に区分できるものであった。上層より出土した土器は8世紀第1四半期のものである。これまでこの古墳の築造年代を出土した鉄鏃や六窓鏃により7世紀前半とする説もあったが、7世紀後半に築造され、8世紀初頭に追葬される段階でかなりの部分が改変され、造り直しが行われたことが明らかになった。

副葬された直刀や刀装具・鉄鏃など武器類のなかには、確かに6世紀後半に出現するものもあるが、これによって直ちに6世紀後半に築造されたとするのは早計である。それらの遺物には、伝播製作された後に保有される期間がありその後に副葬される。さほどに年代差がない八窓鏃と六窓鏃が共に存在することがあるし、足金具の単脚・双脚においても同じである。

1990年代に入って過去10年の間に、新たに約10基余りの横穴式古墳が発掘調査されているが、明確に7世紀前半より以前に構築されたと推測される横穴式古墳はない。おそらくその出現は7世紀中葉以降で、8世紀第3四半期の牛森古墳を最後に100年余りの間営まれたのであろうと考えられる。

そしてそれらは、律令制下各地からこの地に移住した人びとによって造営されたものであろう。なかでも金属採掘や石材加工などの先進技術をもつ渡来系の人びとの関与が大きかったと思われる。南陽市松沢古墳は、箱式石棺を主体とし6世紀後

半の築造とみられるが、石棺の蓋は合掌式に組み上げられていた。信州の渡来系の人びとの古墳群とされている長野市大室古墳群にもこのような例があった。この近くの山は、古くからの鉾山でもある。

畿内においては6世紀末、東国においても7世紀初頭には、前方後円墳の築造は終息する。その後も地域によってはしばらくの間小規模な古墳が造られるが7世紀末には古墳造営の終わりを告げる。

この時期に置賜地域の一部においてなおかつ古墳の造営がつづくことは、部族的結合の強さと中央集権的な律令体制との矛盾のなかで在地勢力がなみなみならぬ力をもっていたことの表われでもあろう。それは、在地勢力の強烈な自己主張でもあった。

6、おわりに

律令国家以前の大和連合政権の勢力が及んだ北限の地である山形において、まず主要な古墳にふれながらその分布の状況を述べた。そして出現期の古墳の成立の様相にもふれ、各地域における動向を古墳からさぐり、さいごに律令制形成期に多く造営された置賜地域の横穴式古墳の特色を述べた。7～8世紀の小規模な円墳は秋田・岩手・青森から北海道の石狩平野にも分布する。これらを一律に「古墳」とすることができかどうかは問題であるが、県内のものは古墳として扱った。

4世紀から8世紀にかけての国家形成期に、北辺の地域がどのようにそれに関与し、政治秩序がどのように形成され、また変質をとげていくのかの過程は古墳を中心的資料としなければならない。古墳の出現から中期・後期古墳への展開過程や当時の集落との関連などについては紙数の関係もあって触れる余裕がなかった。

今後発掘調査の進展により古墳時代史についてさらに深められていくことが期待されるが、現状においても筆者の認識とは異なった見解も多々あるのではないかと考えられる。忌憚のない批判や意見を歓迎し、今後の一層の進展を期待するものである。

(1999. 7. 15)

山形県古墳研究主要文献目録（引用参考文献）

1. 西村 真二 置賜盆地の古代文明 東照閣叢書（上） 1938
2. 柏倉 亮吉 山形県古墳 山形県文化財調査報告書 1953
3. 川崎 利夫 辺境における古墳文化の特質 日本考古学の諸問題 1964
4. 加藤 稔 最上川流域における古墳文化の展開 最上川流域の歴史と文化 1973
5. 東海林次男 出羽南半の古墳文化 山形考古 2-4 1976
6. 川崎 利夫 出羽地域における古墳の成立 考古学研究94 1977
7. 加藤 稔 最上川流域の前方後円墳 最上川総合学術調査報告 1982
8. 保角 里志 山形県の古墳文化についての一考察 さあべい 3-4 1981
9. 佐藤 鎮雄 置賜地方の古墳 南陽市史の古墳をめぐって まんり 1982
10. 川崎 利夫 最上川流域における古墳文化の生成と展開 流域の地方史 1985
11. 川崎 利夫 日本の古代遺跡 山形 1985
12. 手塚 孝 米沢の古代文化 1985
13. 大塚 初重 東日本における古墳文化の成立と展開 一とくに磐前・宮城・山形を中心として 磐台史学67 1986
14. 川崎 利夫 山形南半における終末期古墳の様相 山形考古 4-2 1988
15. 藤沢 敦 山形市菅沢2号墳の埴輪 山形考古 4-2 1988
16. 川崎 利夫 山形県における横穴式石室の受容 奥国における横穴式石室の受容 1989
17. 加藤 稔 最上川流域の古墳時代 山形県立博物館研究報告11 1990
18. 川崎 利夫 東北日本海側の円墳 古代学研究123 1990
19. 川崎 利夫 山形・秋田の古墳 古墳時代研究11 1990
20. 川西町古墳シンポジウム実行委員会 91川西町古墳シンポジウム資料 1991
21. 川西町古墳シンポジウム実行委員会 今、あちのく古墳を語る 1993
22. 高橋 千晶 置賜地方における「終末期古墳」 一横穴式石室の成立年代を中心に 東北文化論のための歴史学・考古学 1992
23. 茨木 光裕 山形盆地の古墳 一その特質と展開 東北文化論のための歴史学・考古学 1992
24. 阿部 明彦 庄内平野の古墳時代 一山形県庄内地方出土の土器を中心として 東北文化論のための歴史学・考古学 1992
25. 加藤 稔 地方の概要 出羽 前方後円墳集成 東北関東編 1994
26. 高橋 千晶 置賜地方の切石石室 一石室構造の観点から 山形考古 5-3 1995
27. 川崎 利夫 置賜地方の横穴式古墳について 山形考古 6-1 1997
28. 牛 森古墳 米沢市八幡原中継工業団地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書 第2集 米沢市教育委員会 1976
29. 戸塚山古墳群詳細分布調査報告書 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第10集 米沢市教育委員会 1989
30. 戸塚山137号 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第9集 米沢市教育委員会 1983
31. 比丘尼平遺跡 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第21集 米沢市教育委員会 1988
32. 八幡塚古墳 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第25集 米沢市教育委員会 1989
33. 賀領塚古墳 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第27集 米沢市教育委員会 1990
34. 木和田古墳 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第31集 米沢市教育委員会 1993
35. 賀領塚古墳 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第31集 米沢市教育委員会 1991
36. 成島古墳群 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第32集 米沢市教育委員会 1992
37. 天神森古墳群 川西町埋蔵文化財調査報告書 第6集 川西町教育委員会 1984
38. 分布調査報告書 川西町埋蔵文化財調査報告書 第7集 川西町教育委員会 1984
39. 下小松105-106号古墳 川西町埋蔵文化財調査報告書 第11集 川西町教育委員会 1987
40. 下小松61-64 川西町埋蔵文化財調査報告書 第10集 川西町教育委員会 1987
41. 下小松143-145 川西町埋蔵文化財調査報告書 第12集 川西町教育委員会 1988
42. 下小松古墳群（1）大塚古墳・小塚古墳 川西町埋蔵文化財調査報告書 第14集 川西町教育委員会 1995
43. 稻荷森古墳 山形県立博物館 1980
44. 稻荷森古墳 南陽市埋蔵文化財調査報告書 第4集 南陽市教育委員会 1989
45. 清水前3号・島松町12号墳 高島町埋蔵文化財調査報告書 第4集 高島町教育委員会 1996
46. 味噌根2号墳 高島町埋蔵文化財調査報告書 第5集 高島町教育委員会 1997
47. 安久津古墳群 高島町埋蔵文化財調査報告書 第6集 高島町教育委員会 1998
48. 河井山遺跡群学術調査報告書 国学院大学考古学資料館 1990
49. 河井山遺跡群第1号墳 河井山遺跡群学術調査報告書 国学院大学考古学資料館 1990
50. 十倉古墳群 柏倉亮吉・武田祥吉・小野忍 山形市教育委員会 1969
51. 菅沢2号墳 山形市教育委員会 1987
52. 菅沢2号墳発掘調査報告書 山形市教育委員会 1989
53. 上遠矢塚古墳調査報告書 上遠矢塚古墳調査団 天童市 1978
54. 坊主塚1号墳予備調査報告書 山形県埋蔵文化財調査報告書2 山形町教育委員会 1989
55. 大塚天神古墳第1次調査概要 山形町教育委員会 1997
56. 清水前古墳群 山形県埋蔵文化財調査報告書 第3集 山形県教育委員会 1974
57. 大之越古墳 山形県埋蔵文化財調査報告書 第18集 山形県教育委員会 1979
58. お花山古墳群 山形県埋蔵文化財調査報告書 第35集 山形県教育委員会 1985
59. お花山古墳群3次 山形県埋蔵文化財調査報告書 第35集 山形県教育委員会 1987
60. 安久津古墳群 山形県埋蔵文化財調査報告書 第35集 山形県教育委員会 1985
61. 山の神1号墳 山形県埋蔵文化財調査報告書 第13集 山形県教育委員会 1987
62. 安久津3-4号墳 山形県埋蔵文化財調査報告書 第35集 山形県教育委員会 1992
63. 下横遺跡 山形県埋蔵文化財調査報告書 第39集 山形県教育委員会 1981
64. 斎藤 敏明 米沢盆地の古墳 一下小松古墳群の調査から 山形県地域史研究22 1997
65. 阿部 明彦 山形県における古墳文化研究の素地 山形県立博物館研究報告20 1998
66. 加藤 稔 最上川流域における古墳文化の展開 その後 やまがたの地域史 1999

〔県史・市町村史〕

67. 山形県史 考古資料 資料編11 1964
68. 山形県史 通史編 第1巻 原始・古代・中世編 1972
69. 山形県史 要覧 別冊 1985
70. 高島町史 別巻 考古資料編 1971
71. 川西町史 上巻 1979
72. 長井市史 第1巻 原始・古代・中世編 1984
73. 南陽市史 考古資料編 1987
74. 米沢市史 原始・古代・中世編 1996
75. 山形市史 別巻1 遺跡跡 1973
76. 山形市史 上巻 原始・古代・中世編 1973
77. 山形市史 別巻上 遺跡・遺物編 1973
78. 天童市史 別巻上 地理・考古編 1978
79. 村山市史 別巻1 原始古代編 1982
80. 東根市史 考古・民族編 1988
81. 中山町史 上巻 1991
82. 寒河江市史 上巻 1990

第8回 企画展

やまがたの古墳とその時代

編 集	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町大字安久津2117 TEL (0238) 52 - 2585 FAX (0238) 52 - 4665
発 行	1999年10月1日 (更訂2003年)
印 刷	(有) 高 畠 印 刷

- NO. 1・2、4～8 山形市教育委員会より借用
 3 山形市教育委員会 1991『菅沢2号墳』
 9 川崎利夫撮影
 10・11 上山市教育委員会 1969『土矢倉古墳』
 12・13 川崎利夫撮影
 14・15 山辺町教育委員会より借用
 16 茨木光裕氏より借用
 17 川崎利夫作成
 18 米沢市教育委員会・置賜考古学会 1979『八幡原NO.43 比丘尼平遺跡』
 19 米沢市教育委員会より借用
 20 川崎利夫撮影
 21・22 米沢市教育委員会 1991『寶領塚古墳』
 23・24・26 川崎利夫撮影
 25 米沢市教育委員会 1989『戸塚山古墳群詳細分布調査報告書』
 27・28 川崎利夫撮影
 29 川西町教育委員会 1984『天神杜古墳群』
 30 齋藤敏明 1997『米沢盆地の古墳—下小松古墳の調査から』『山形県地域史研究』22
 31・33・34 川崎利夫撮影
 32・35 南陽市 1987『南陽市史考古資料編』
 36・38 川崎利夫撮影
 37 米沢市教育委員会 1992『成島古墳群』
 39・41 川崎利夫撮影
 40 山形市教育委員会 1991『菅沢2号墳』
 42 山形県教育委員会 1979『大之越古墳』
 43・45 川崎利夫撮影
 44 山辺町教育委員会 1997『大塚天神古墳第1次調査概要』
 46 山辺町教育委員会 1989『坊主窪1号墳予備調査報告書』
 47・48 川崎利夫撮影
 49 山形県教育委員会 1985『お花山古墳群』
 50 柏倉亮吉 1953『山形県の古墳』
 51～54 川崎利夫撮影
 53 隣名取古墳墳丘図 村山市 1982『村山市史別巻1 原始古代編』
 55・56 米沢市教育委員会 1983『戸塚山137号墳』
 P17 横山古墳の全景、2・3号墓坑 川崎利夫撮影
 P17 横山古墳墳丘図・墓坑平面図 米沢市教育委員会 1999『横山古墳発掘調査現地説明会資料』
 57・59 川崎利夫撮影
 58 川西町教育委員会 1987『下小松61・64』
 60 川崎利夫・島津美智雄 1997『安然大師入定窟をたずねる』『うきたむ考古』2号
 61・62 川崎利夫撮影
 63 山形県教育委員会 1979『大之越古墳』
 64・65 川崎利夫撮影
 66 柏倉亮吉 1953『山形県の古墳』
 67 川崎利夫 1980『古墳時代の庄内地方』『庄内考古』17号
 68・69 川崎利夫撮影
 70 川崎利夫作図
 71・73・74・75 川崎利夫撮影
 72 米沢市教育委員会 1998『木和田古墳』
 76 高橋千晶 1992『置賜地方における「終末期古墳」』『東北文化論のための先史学歴史学論集』
 77・78・80 川崎利夫撮影
 79 高畠町教育委員会 1998『安久津古墳群』
 81・82・83 川崎利夫撮影
 84・85・86 川崎利夫・宇佐美ふゆ作図
 87・89・90 川崎利夫撮影
 88・91 南陽市 1987『南陽市史考古資料編』
 92 米沢市教育委員会 1988『比丘尼平遺跡』
 93～96 川崎利夫撮影
 97・98 山形県教育委員会 1979『大之越古墳』
 99・100 川崎利夫撮影
 101・102・103 川崎利夫撮影
 104 山形市教育委員会 1991『菅沢2号墳』
 105 山形県教育委員会 1979『大之越古墳』
 106～109 川崎利夫撮影
 110 山形県教育委員会 1985『お花山古墳群』
 111～114 川西町教育委員会 1988『下小松143・145』
 115・116 川崎利夫撮影
 117 高畠町教育委員会 1998『安久津古墳群』
 118・119・122 川崎利夫撮影
 120・121 川崎利夫作図
 122 川崎利夫撮影
 123 川崎利夫撮影
 124・125 南陽市 1987『南陽市史考古資料編』
 126・127・128 川崎利夫撮影
 129 山形県教育委員会 1981『下楨遺跡』



やまがたの古墳とその時代